

272-89



272
89



始



272-89



1200501356996

272
39

職業指導實施要綱

三橋節著

三橋節著

職業指導實施要綱

文翫堂書店版



272-89

序

本邦初等教育界に於ける職業指導は、未開拓の分野であつて、然かも時勢に適應せる國民教育の眞使命を完うせんが爲には、是非この問題に觸れてその實際的解決を圖らなければならない重要懸案である。私は直接その實施を試みるに三年、茲にその要綱を録して公刊するに至つたのである。未だその要を盡さざれども、幸に斯道に忠實なる人々の一顧に値するところありて、聊かにても本問題の解決に寄與することを得ば本懐の至りである。

昭和五年十月十日

著者識

職業指導實施要綱 (目次)

第一章	緒言	一
第二章	我が國に於ける職業指導運動	八
第三章	職業指導の意義	二四
第四章	職業指導施設體系	三〇
第五章	職業調査	三五
第一節	各教科書所載職業的事項の調査	三五
第二節	職業の實地調査	三三
第三節	職業適性の研究	三六
第六章	個性調査	六三
第一節	「個性要録」の創案	六三

第二節 學業成績考查……………九
 第三節 性能検査……………九

第七章 勤勞陶冶……………一三

第一節 勤勞陶冶の意義……………一三
 第二節 勤勞陶冶實施綱領……………一三

第八章 職業理解……………一七

第一節 各科學習指導上の注意……………一七
 第二節 職業指導讀本の編著……………一八
 第三節 職業講話……………二〇
 第四節 職業研究の指導……………二六
 第五節 立志促進……………二七
 第六節 女兒に對する特別注意……………二七

第九章 選職輔導……………二八

第一節 職業選擇上の主要條件……………二八
 第二節 選職輔導の實際的方針……………二九
 第三節 志望調査處置の實際……………二九

第十章 就職紹介……………三〇

第一節 保護者の配慮促進……………三〇
 第二節 職業紹介所との連絡……………三〇

第十一章 就職後の輔導……………三〇

第一節 就職後の狀況照會……………三〇
 第二節 卒業成績と就職少年の待遇……………三一
 第三節 就職少年體驗の聲……………三二
 第四節 雇傭主へ挨拶狀發送……………三三

第五節 雇傭主の回答書抄録……………三四五

第十二章 農村に於ける職業指導上の特別注意……………三七

附 録 少年少女求人一覽表

(以上)

目次 (終)

職業指導實施要綱

三橋 節 著

第一章 緒言



私は大正十五年一月に公刊した『教育の基調を正せ』と題せる小著に左の如き結論を掲げてある。

以上七章に亘つて概叙せる我が國民教育の改善刷新を庶幾して現代教育の基調を正さんとする意圖を約言すれば

学校教育の社會化を期するにあり。

と言ひ得るのである。学校教育の社會化とは對内的(求心的)と對外的(遠心的)との二方面を含む。

對内的社會化とは、即ち学校教育それ自体を社會化することを意味するのであつて、夫れは

學校教育と實際生活との交渉を出来るだけ融合せしめようとの運動に外ならぬのである。そこで之を

一、教授方面についていへば、

教材をつとめて郷土化し具體化し實際化すべく、教法上では兒童の個性を尊重して自己活動を旺盛ならしむる事と、直觀作爲發表を重んじて特に應用創造力の啓培に努むる事とをその綱領として、

- 1、自學及び共學の督勵につとむること
 - 2、機會教育を重んずること
 - 3、校外教授を勵行すること
 - 4、作爲訓練并に藝術的陶冶を重視すること
 - 5、應能適性的指導の徹底を期すること
- 等の諸項が實行せられなければならぬ。

二、訓練方面に就いていへば、

- 1、學校をつとめて社會の縮圖たらしめ自由にして自然的なる空氣を濃厚ならしむること

2、自治自學の習慣養成に、相互扶助協力の精神陶冶に、趣味的生活の向上等に夫々努力すべきことを以てその二大眼目となし、課業時限區分法の劃一制を改良すること、自由研究并に休養娛樂の設備を整ふること等の企圖を進め、兒童風紀の自覺的振肅をはかり、學藝會競技會等の開催、雜誌の發刊、來客の接待、幼年者の看護等を自治的に實行せしむべきである。

三、養護方面に就いていへば、

衛生思想の涵養と健康保持、生命尊重、事故防止訓練の徹底を期すること、運動趣味の養成に努むること、救護施設の充實を期すること等に一段の考慮を加へねばならぬ。

對外的社會化とは、學校教育の延長を意味する。即ち學校をして社會教化の中心機關たるの權威を完うせしめたいといふ理想の實現を期するにある。かくて學校經營は教育助長の各種社會的機關の發達と相俟つて、その有終の美を庶幾し得るのである。さればその理想を實現すべく

第一に、學校開放問題を解決づけねばならぬ。即ち運動場の開放、文庫の開放、其他特別教室の開放施設等を整ふべきである。

第二には、教育の宣傳につとむる事である。常例教育講演日を設けること、廣く各關係者の

實際教育懇談會を開催すること、改良せられたる眞摯なる教育的展覽會運動會學藝會を公開すること等の施設の講究を要する。

第三には、児童相談、職業相談、卒業生并に一般青少年の指導、社會文化の促進に應ずる施設等を完備することである。

是等の施設が夫々順當に擴充されて行かなければならぬ。

と主張して置いたが、次で昭和二年三月に發行した「普通教育に於ける手工科並に工業科の使用」と題せる拙著に「現代教育の三大缺陷」として、

第一に、記號教育に墮してゐる。即ち言語によるか乃至は文字によるかの劃一的注入教育偏重の弊を挙げ、第二に、内省自覺の陶冶が不徹底であるといふことを論じ、第三に職業的訓練を疎外してゐる教育上の一大通弊を指摘して置いたのである。

この三大缺陷は夫々相互に關聯するところがあるのであるが、特に職業的訓練を輕視疎外せる時弊に對して、

「……或る人のいへるが如く人生はより完全なる表現法の探究である。而して職業なるものは社會聯帶人として自己の本領を發揮する所以の要道である。吾人の有する力はどのやうな道を

とつてか働かすにはゐない。さればその生活々動を意義あらしめて自己を眞に生かすと共に同胞の福利に寄與せしむるやうに職業と生活を一如たらしむべく、エンジェル氏のいへる「平生自己の執つて居る仕事について尤も愉快を感じるものは藝術家である。但しそれは畢竟自己の本領とするところを行爲の上に現はして來るからである。逆に自分の仕事に興味を感じて従事して居る人は其の點に於て藝術家であるといふべきである」といふ意味に於ける職業の藝術化乃至人格化を促進する上に貢献することを以て常に教育の根本方針となさなければならぬ。随つて普通教育に於ても努めて職業に對する理解と堪能とを得しめ適材適所の配置に最善を盡さんければならぬといふ事は自明の理を謂つべきである。

ケルシエンシタイナー氏は之を論じて曰く、

職業教育を普通教育の外におく思想は往昔職業に従事しない社會を判然區別した時代に出來た思想である。教育は生きた人間を作るが目的で働きある國民の養成が教育でありとせば、すべての教育は職業的になるべきもので職業教育は別種の教育ではない。唯何れの職業に従事する者にも必要な教育を施すのが普通教育であり、特定の職業に直接必要な教育を授くるのが所謂職業教育である譯で、即ち教育は眞の職業教育であらねばならぬ。すべて勤勞を通じて人

間を作るべきである。勤勞の上に立たぬ教育なりとせばそれは眞の教育でない。勤勞によつて初めて強き實際的生産的活動が出来るのである。と。

エルツツド教授も亦左の如く主張して居る。

舊教育は職業的方面には狹量であつた。何となれば舊教育は唯學問の要ある三種の職業即ち行政家、法律家及び醫者に對する準備を授けたに過ぎなかつたからである。新教育は教育制度上社會的に有力なるあらゆる職業の要求を認めて居る。デモクラシーの下にあつては一切の公民は其の生活上の仕事に對する準備の爲に學校時代に於て特別の助力を受くべき權利を有つて居る。云々

之れ共に吾人の反省に資すべき言である。即ち我が國に於ける從來の教育事態は久しく不徹底なる形式的の一般陶冶に累せられて、深く教育の大本たる眞に人を生かすべき方途を省みるに至らず、現になほ普通教育に於ける職業的訓練は甚だしく疎外されてゐる憾がある。爲に國民の多衆に對して職業的理解と堪能とを得しむべき應能適性的指導に關する研究施設が不徹底で却つて勤勞忌避の風を助長しつゝあるではないかとさへ危ぶまれる。……」

主張して置いた。ところが今年四月大阪市立難波高等小學校に赴任して直接兒童についている

／＼の調査を進めるにつれて、私の如上の主張が間違つてゐなかつたといふ事を確かめる幾多の事實に逢着し且つは在校兒童の約九割までが卒業後直ちに實務に就く者であるといふ關係から、愈々職業指導問題について實地に解決を加へなければならぬと考へ、苦心を重ねて漸く實施するに至れる施設の梗概をば、その翌年十月に公刊せる『大衆教育の基調』と題せる拙著の中に發表して大方の叱正を求めた。爾來二ヶ年その業漸く緒につくに及んで今回大阪市立九條第一尋常小學校長兼全商工專修學校長兼全幼稚園長に轉することになつたから、この機會に本問題について各所で講演せる事項を補綴して之を梓に上すことにしたのである。以て職業指導の普及徹底を促がす上に參按の資とならば本懐至極である。なほ新に任に就いた學校は尋常小學校に商工補習學校を併設せる所であるから、尋常小學校并に補習學校に於ける本問題の解決に實際的研究を加へて、更に斯道に寄與したいと思つてゐる。

第二章 我が國に於ける職業指導運動

職業指導的施設は必ずしも新奇の問題ではない。従前から教育實際家の間に於て相當之に意を用ひてゐた向もあるが、然しこの問題が全國的に高唱せらるゝやうになつたのは至つて最近の事で、然かもその運動の端緒は職業紹介機關によつて開かれたのである。

大正十四年七月八日附で内務省社會局第二部長及文部省普通學務局長より、地方長官并に中央職業紹介事務局へ、少年職業紹介に關する通牒が發せられた。その要旨は、

「其性質及能力ノ最モ適應スベキ職業ニ就カシムルコトハ職業指導上極メテ緊要ノ事ニ有之且ツ將來失業ノ機會ヲ少カラシムル上ニ於テモ其効果尠カラザルモノト認メラレ候ニ就テハ小學校卒業後直ニ求職セムトスル者ニ對シテハ各自ノ性質及能力ニ付最モ精通スル小學校ト職業ノ狀況ニ通ズル職業紹介所ト相互聯絡ヲ保チ提携協力シ以テ適當ナル職業ヲ選擇指導セシムル様致度大体左記ノ如キ施設ヲ講ズル等相當御配慮相成度

一、少年ノ職業選擇指導ノ爲小學校教員、職業紹介所職員、醫師其他ト密接ナル聯絡ヲ圖リ必要ナル場合ニハ之等ノ者ヨリ組織スル委員會ヲ設置スルコト

- 二、小學校ハ小學校卒業後職業ニ從事セムトスル者ニ付必要アルトキハ卒業前本人の學業、體格、性質其他參考トナルベキ事項ヲ職業紹介所ニ通報スルコト
- 三、職業紹介所ハ各職業別ニ依ル勞務需給ノ狀況及求人口ヲ小學校ニ通報スルコト
- 四、求職少年ノ父兄會等ヲ開催シ本人ノ性質能力ニ適スル職業ノ選擇ニ付指導誘掖スルコト
- 五、職業選擇ニ付指導シタル結果其職業ニ就職シタル者ニ關シ職業紹介所ハ時々其就職後ノ狀況ヲ調査シ之ヲ關係小學校長ニ通報スルコト

といふ事であつた。之によつて我が國に於ける少年の職業紹介に關する當初の當局の意圖の一斑が窺知されるのである。かくて各地方職業紹介事務局は管下の職業紹介所を督勵し、それ〴〵小學校と相互の連絡を保たせ指導獎勵に努められた。更に道府縣又は市町村若くは職業紹介所の主催で協議會、懇談會、講習會、講演會を開催してこの運動についての知識普及を圖り且つ事業實施に關し具體的の打合せをなし、その上少年職業紹介委員會の設置、適性検査の實施等を促進されたのである。

○ 少年職業紹介機關之設備調 (昭和四年八月現在)

年 別	紹介所數	取扱紹介所數	適性検査設備	紹介委員會	連絡小學校數	就職數
大正十五年	一八九	一〇九	二三	一九	一九二五	六、三〇一
昭和二年	二〇八	一二七	二七	二七	二、六一一	九、六八五
昭和三年	二一二	一四二	四四	四二	二、八四〇	五、一三〇
昭和四年	二四二	一六〇	五八	四四	三、二五二	六、四七九

(備考) 全國小學校數二五、五四六 (昭和三年三月現在)

○ 全國職業紹介機關一覽 (昭和五年八月現在)

東京地方職業紹介事務局 (社會局內)	大阪地方職業紹介事務局 (大阪市西區靱南通五丁目)	名古屋地方職業紹介事務局 (愛知縣廳內)	福岡地方職業紹介事務局 (福岡縣廳內)
北海道、東京府、神奈川縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、山梨縣、長野縣、新潟縣、宮城縣、福島縣、岩手縣、青森縣、山形縣、秋田縣	大阪府、京都府、兵庫縣、奈良縣、滋賀縣、鳥取縣、和歌山縣、岡山縣、廣島縣、愛媛縣、高知縣、香川縣	愛知縣、靜岡縣、三重縣、岐阜縣、福井縣、石川縣、富山縣	山口縣、福岡縣、長崎縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣
各職業紹介所 (一一四)	各職業紹介所 (六三)	各職業紹介所 (三三)	各職業紹介所 (二八)

職業紹介事務局では愈々少年の職業紹介事業の進展を圖るに當つて、之が宣傳書を頒布されたが、その印刷物の中に「職業指導とはどんな事をするかといふ」見出で次のやうなことが記された。

「……夫々向々の職業を選択して雇主に紹介し就職後も尙進歩向上するやうに色々とお世話することを職業指導と申しまして職業紹介所では次のやうな事を致します。先づ準備的指導として職業とはどんなものか。何ういふ職業にはどんな性能が必要であるか。といふことを教へて職業を選択することが出来るやうに豫め力づけることを致します。其の方法として職業について書いた色々な印刷物を配り講演會を催す外小學校の保護者會や學藝會でも出来る丈け之に關するお話をすることを致して居ります。又小學校でもこの目的を以て工場等を見學させて居るところもあります。さうして職業紹介所で職業を紹介するには、本人の希望や家庭の事情も考へに加へ大都市の職業紹介所では適性検査をして一番適當な將來有望な職業を選択してから致します。雇主の方も勿論その信用并に事業經營の状態、業務の性質、將來の見込、雇傭條件の適否、福利施設等出来る限りの調査を致します。かやうにして紹介就職した少年につきましても其職業に熟練し向上進歩し益發展するやうに後々までも可成お世話することになつて居ります。云々」

ところで實際に於て前に記載せるが如き、記號的注入的教育を偏重せる、内省自覺の陶冶の不徹底なる、職業的陶冶を疎外せる現代教育の缺陷弊所を改めずして、茲に標榜してゐる所謂職業指導が遺憾なく遂行せられるであらうか。職業紹介所で「豫め職業を選択することが出来るやうに力づける」と稱してゐるが、この事がさう簡單に片着けられることであらうか。職業選擇の能力を得しめんが爲には個性的自覺を促がすと共に職業に對する理解を得しめなければならぬのである。一回や二回の講話を聴かせた位で、又現在の研究程度に於けるメンタルテストや適性検査でそれを解決づけることは到底望み難き事であるのは云ふまでもないことである。随つて職業指導の徹底は基礎教育の改善刷新と相俟たねばならぬのである。是れ輓近漸く小學校に於ける職業指導問題が當面の重要懸案として論議せられるやうになつた所以である。

かくて昭和二年十一月二十五日左の文部省訓令が發せらるゝに至つた。

○ 兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル件

學校ニ於テ兒童生徒ノ心身ノ傾向等ニ稽ヘテ適切ナル教育ヲ行ヒ更ニ學校卒業後ノ進路ニ關シ青少年ヲシテ其ノ性能ノ適スル所ニ向ハシムルハ時勢ノ進歩ト社會ノ推移トニ照シ洵ニ喫

緊ノ要務ニ屬ス。隨ツテ學校ニ在リテハ平素ヨリ兒童生徒ノ個性ノ調査ヲ行ヒ其ノ環境ヲモ
顧慮シテ實際ニ適切ナル教育ヲ施シ各人ノ長所ヲ發揮セシメ職業ノ選擇等ニ關シ懇切周到ニ
指導スルコトヲ要ス。是ノ如クシテ國民精神ヲ啓培スルト共ニ職業ニ關スル理解ヲ得シメ勤
勞ヲ重ムズル習性ヲ養ヒ始メテ教育ノ本旨ヲ達成スルニ至ルモノナルヲ以テ自今各學校ニ於
テハ左ニ掲グル事項ニ就キ特ニ深ク意ヲ用フベシ。

一、兒童生徒ノ性行、知能、趣味、特長、學習狀況、身体ノ情況、家庭其他ノ環境等ヲ精密
ニ調査シ教養指導上ノ重要ナル資料トナスコト。

一、個性ニ基キテ其ノ長所ヲ進メ卒業後ニ於ケル職業ノ選擇又ハ上級學校ノ選擇等ニ關シテ
ハ適當ナル指導ヲナスコト

一、學校ハ前掲ノ教養指導等ニ關シ父兄及保護者トノ連絡提携ヲ密接ニスルコト
地方長官ハ克ク以上ノ旨趣ヲ體シ其目的ノ達成ニカメムコトヲ望ム。

昭和二年十一月二十五日

文 部 大 臣

○ 全、文部次官ヨリ各地方長官宛通牒

本日文部省訓令第二十號ヲ以テ標記ノ件訓令相成タル處右實施ニ就キテハ特ニ左記事項御留
意相成度依命此段通牒ス

記

一、兒童生徒ノ個性、環境等觀察調査ノ方法及記入ノ様式ニ關シテハ學校當事者ヲシテ特ニ

研究工夫セシムルコト

一、學校當事者ヲシテ職業紹介所等トノ連絡ヲ密接ナラシムルコト

一、師範學校實業補習學校教員養成所等ニ於テ生徒教養上訓令ノ旨趣ニ就キ特ニ留意セシム
ルコト

一、學校教員等ニ對シ適宜個性調査ニ關スル講習ヲ爲スコト

一、訓令ノ旨趣ハ之ヲ父兄保護者等ニ徹底セシムルコト (以上)

これより先き昭和二年五月東京市の教育當局は全市小學校長會を開催して職業指導實施方につ
いて協議の結果、尋常第五學年以上の兒童ニ適宜の時間を割いて特別の職業講話を爲すこと、各
校職員中に職業指導係を設置して職業指導實施に關する研究を促進すること等を申合された。大
阪市では全年七月、始めて職業紹介委員を設けられたが、市長より委囑された委員總員五十名中

の小學校長九名は専ら少年職業指導に關する方面の事に當ることになり、私もその委員に加へられたのである。さうして全年十月市長の諮問に對して左の如き答申をした。

○ 大阪市職業紹介委員少年部會決議（昭和二年十月廿四日）

諮問事項

少年職業指導上現行方法ヲ改善又ハ新ニ計畫スベキ適切ナル方案如何

決議

- 一、現行ノ補習教育ニ相當改善ヲ加ヘ一層其ノ内容ヲ充實セシメ又ハ簡易ナル職業教育機關ヲ設ケ就職者并ニ未就職者ニ對シ適當ナル補習教育ヲ施スコト
- 二、各小學校ニ性能検査ノ用具ヲ備付ケ又ハ適當ナル方法ニ依リ兒童ノ適性検査ヲ行フコト
- 三、市内各小學校ニ主任一名係員若干名ノ職業指導係ヲ置クト共ニ之ガ指導ニ必要ナル講習ヲ爲スコト
- 四、小學校ニ於テハ「職業指導講話要項並見學指導案」ヲ作り教授ニ當リ職業指導ヲ爲スコト
- 五、小學校ニ於テハ「職業指導訓練實施案」ヲ作り兒童ニ職業上ノ訓練ヲ爲スコト

六、小學校ニ於テハ「個性調査票」ヲ作り兒童ノ個性環境等必要ナル事項ヲ精細ニ調査シ職業指導ノ便ニ資スルコト

七、職業ニ關スル諸般ノ調査研究ヲ爲スタメ適當ナル方法ニ依リ職業指導研究會ヲ組織シ以テ兒童ノ職業指導ニ資スルコト

八、中央職業紹介所ノ少年部ニ於テハ少年職業指導ニ關シ必要ナル冊子類ノ刊行頒布、實地見學ノ施行雇傭主ノ會合其他有効適切ナル施設ヲ爲シ一層本事業ノ達成ニ努ムルコト

(以上)

而して該委員の手で「小學校に於ける職業指導講話并に訓練要項」を編著して、翌年一月に各小學校へ參考の爲に一部宛頒布した。

それから同時に市の社會部長と教育部長と私共とが發起して大阪市少年職業指導研究會を創設した。

その頃東京でも赤司前文部次官を會長とせる大日本職業指導協會の發會式が舉げられ、機關雜誌「職業指導」を刊行される運びに至つた。

全年五月大阪市職業紹介委員少年部會は市長の第二諮問に對して左の如き答申を爲した。

諮問事項

少年及父兄ニ對シ職業ノ選擇ニ便シ指導上遺憾ナキヲ期スル爲、少年ノ從事スベキ職業ニ對スル理解ヲ喚起スル適當ナル方案如何

決議

- 一、小學校及職業紹介所ニ於テ適當ナル機會ヲ利用シテ職業ニ關スル講演會講習會展覽會等ヲ開催スルコト
- 二、小學校及職業紹介所ニ於テナルベク多方面ニ亙リテ作業ノ實地見學ヲ計畫實施スルコト
- 三、小學校及職業紹介所ニ於テ作業狀況ヲ解説セル寫真生産品見本其他職業ニ關スル諸統計類ノ蒐集利用ニカムルコト
- 四、尋常小學校ノ高學年及高等小學校ニ於テ各科教授ノ際力メテ職業ニ關スル實際的理解ヲ圖ルト共ニ更ニ修身科ノ時間ノ一部ヲ割キ又ハ課外ニ於テ適宜系統的ニ職業上ノ講話ヲナスコト
- 五、職業内容ヲ平易ニ解説セル冊子ヲ頒布スルコト
- 六、作業狀況、職業美談等ヲ撮影セル映畫ヲ作成利用スルコト

七、小學校ニ於テ勤勞作業ヲ重ンズルト共ニ家庭ニ於テ喜ンデ家業ヲ手傳フ習慣ヲ養ハシムルコト

八、學校ノ休業期間ヲ利用シテ兒童ノ職業實習上ノ便宜ヲ圖ルコト (以上)
全年六月、大阪市少年職業指導研究會では私の編著した「職業指導本職業」と題せる小冊子を實費で廣く全國に頒布することにした。

文部省では、全年一月東京市に於て個性尊重、職業指導に關する第一回講習會を開催し、引續き全年六月にその第二回講習會を大阪市に於て開催された。

かくして各地の職業紹介所又は教育會等或は學校單獨の主催の下に之が研究會講習會が頻繁に開催されるやうになつた。更に昭和四年に入つては二月中旬に三日間東京市で大日本職業指導協會主催の第一回全國職業指導協議會が開かれ、全国各地より來會せる者三百名、頗る盛況を呈した。

六月十八日より十日間内務省社會局主催の職業紹介事業講習會が東京で開かれた。私はその講師を委嘱されて「職業指導の實際」に就いて講演した。

十月中旬に大日本職業指導協會主催の第二回全國職業指導協議會が再び東京市に於て開催さ

れた。

大阪市少年職業指導研究會は本年度になつて全市小學校が舉つて之に参加することになり、左の如き規約に基いて愈々事業の進展を期することになつた。

○ 大阪市少年職業指導研究會々則

第一條 本會ハ大阪市少年職業指導研究會ト稱シ事務所ヲ大阪市立中央職業紹介所内ニ置ク

第二條 本會ハ少年ノ職業指導ニ關スル調査研究ヲナシ其ノ進展ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達スルタメ本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、少年ノ職業ニ關スル調査及研究
- 二、少年ノ職業並進學指導ニ關スル調査及研究
- 三、少年ノ職業及其ノ指導ニ關スル講演會、講習會、展覽會其ノ他諸集會ノ開催及其ノ後援
- 四、少年ノ職業及其ノ指導ニ關スル諸資料ノ編纂、蒐集及發刊
- 五、其ノ他必要ト認ムル事項

第四條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

- 一、正會員 年額會費金貳圓ヲ齎出スルモノ
- 二、特別會員 本會ニ於テ特ニ推薦シタルモノ

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名 大阪市助役ヲ推戴ス
- 副會長 二名 大阪市教育部長ヲ推ス
大阪市社會部長ヲ推ス
- 顧問 若干名 會長之ヲ推薦ス
- 評議員 若干名 會長之ヲ委囑ス 但任期二ケ年
- 理事 三十名 評議員會ニ於テ之ヲ選舉ス 但任期二ケ年
- 幹事 五名 會長之ヲ委囑ス 但任期二ケ年

第六條 役員ノ任務左ノ如シ

- 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
- 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時之ヲ代理ス
- 顧問ハ本會ノ重要事項ニ關シ會長ノ諮問ニ應ズ

評議員ハ評議員會ノ召集ニ應ジ議案ヲ審議シ且重要ナル事項ノ協議ニ參與ス
理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ事務ヲ處理ス
幹事ハ理事ノ指揮ヲ受ケ常務ヲ担当ス

第七條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ會長ノ委嘱ニヨリ委員ヲ置ク

第八條 本會ハ左ノ會議ヲ開催ス

一、總會 毎年一回之ヲ開キ議事、報告ヲ行フ

但必要ニ應ジ臨時ニ開催スルコトアルヘシ

二、理事會、評議員會 隨時必要ニ應ジ之ヲ開催ス

第九條 本會ノ經費ハ會費、補助金並寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十一條 豫算ハ評議員會ノ決議ヲ經テ毎年定期總會ニ於テ會員ニ報告ス

第十二條 前年度ノ收支決算ハ評議員ノ承認ヲ經テ毎年定期總會ニ於テ會員ニ報告ス

附 則

第十三條 本會則施行ニ關スル細則ハ理事會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ定ム

第十四條 本會則ノ變更又ハ修正ヲ行ハントスル時ハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ於テ承認ヲ受

ク

以上が我が國教育界に於て最近に擡頭せる職業指導運動の概況であるが、さて之が實際施設の上に及ぼしてゐる反映を眺める時なほ望洋の感がある。即ち本問題に對する保護者の理解及び事業家との協調の上に遺憾多きのみならず、教育當事者の中にさへまだ本問題を單に職業紹介の事務的問題なりと考へたり、或は個性調査の一面の高調に没頭して之が指導の對案の研究を忽かせにしてゐる向などがある。又單なる功利主義の立場から本問題が提唱されてゐるものゝ如く曲解せるものもある。

是れ職業指導運動を更に一強調するの要がある所以である。

第三章 職業指導の意義

抑も小學校の教育は國民大衆の思想生活道德生活政治生活乃至經濟生活等の實際的基調を正して、その生活能率の最低水準を出來るだけ向上せしむべく最善を盡すべきであつて、かくてこそ基礎的の國民普通教育の名に背かざることを得ると考へられる。

而してその生活能率を高めるといふことは詮するところ各人獨自の本領を遺憾なく發揮せしむる事に外ならないのである。即ち馬鹿にも取柄がある、枯木も山の賑ひとの諺の通り何人も、我々ならでは果すことのかなはぬ獨自的使命を負ふてこの世に生を稟けてゐる。その特長本領とするところを十分に發揮せしむべく個性に應じた指導を加へることが各自の處世の最高能率を擧げしむる道であつて、思想生活も道德生活も政治生活も經濟生活も共にそこに根柢づけられてその安定を庶幾することが出來るのである。

個性尊重、自覺促進の必要を叫ぶ所以は茲に存するのであるが、之が指導の實際に當つては、更に各人が愈々實社會に出て現實の具體人としてのその本領を發揮せんが爲には、必ずや何かの職業に據らなければならぬといふ事實に即して深く考慮せねばならぬ。即ちデモクラシーの現

代社會に於ては既に職業を離れて生活なく、生活を離れて職業無しといふ事が文字通りに實現され生活と職業との不可分の交渉が萬人共通の事實となつて吾人は既に大衆の支持せる世界共通の職業網に包まれて生存してゐるのである。随つて何人も必ず何かの職業に就いてその網の目の一つを分擔して人類の共存共榮に參與し、各人獨自の本領を發揮して應分の役目を果さねばならぬ。それが人生に意義づける所以であり、自他を正しく生かす要道であるとの正しき自覺とその實行力の啓培に大いに意を用ふべきである。

職業精神の鼓吹、勤勞陶冶の必要を叫ぶ所以は茲に存する。

尙又文明の進歩は生存競争を烈しからしめ人間能率の増進をいやが上に強調しそれが爲に分業が盛に行はれ職業がだん／＼分化して業務が次第に専門的となり、職業別に知識才幹技術体格及び境遇等に對する要求即ち職業的適性が益々局限せられることになつてゐるから、各人が實社會に出てその獨自の本領を遺憾なく發揮しその生活能率を十分に高調せんが爲には、その性能境遇に適應せる職業を選ぶといふことに一層の重要性を加へて來て居るのである。されば教育は人を正しく生かす道即ちその生活能率を高調しその生活の安定を得しむる道であるといふことを肯定するならば、當然に適材適所の配置の上にならば相當の考慮を拂ふべきであると主張する所以は茲

に存するのである。

斯くして教育指導が當に職業生活を對象として相當に權威づけられるやうにならなければならぬと考へるのである。

かやうな見地から、私は都鄙を通じて學校の事情如何を問はずあらゆる學校に於て、

- 一、凡ての能力の調和的發達を目的とする所謂一般的陶冶を擴充して職業的陶冶即ち、
- 1、勤勞陶冶を強調し、楽しんで勞作する習慣を得しめて生活基調を正すこと
- 2、各自の活源即ちその長所特能を發揮せしむること
- 3、職業の實際に關する理解を得しめ、職業精神を鼓吹し、職業選擇の能力を啓培すること等に大いに力を致さなければならぬと主張するのである。

二、個性尊重の教育に適材配置の實際的指導即ち、

- 1、選職及び進學の輔導
- 2、就職の紹介
- 3、就職後の輔導

といふ事をつながらさなければならぬと主張するのである。

而して從來の我が教育界の實情に顧み、是等の問題に妥當なる解決を加ふることが、國民教育刷新の基調的懸案であると信じ、特に本問題を強調せんが爲に便宜之に「職業指導」との命題を以てすることにしてゐるのであつて、眞に民衆を生かし國家社會の福祉の増進に寄與すべく世を擧げて本問題即ち基調的の教育問題であり社會問題であり人生問題である斯の如く意義づけられたる職業指導の徹底に善處せらるゝの目を切に／＼期待してゐる譯である。

如上の職業指導問題に對する見解を約言すれば左の通りである。

職業指導問題は現實の具體人を對象としての教育の實際化、社會化運動に淵源するのであつて、即ち各人の生活と職業とを一如たらしむべく合理的に職業と人をつながらせ、適材を適所に配して、個人の生活安定と國家社會の福祉の増進に寄與せんことを庶幾して、その基礎に培はんとする國民教育改造の基調問題である。

随つてその内容は關聯するところが甚だ廣汎で且つ複雑を極めるのであるが、要するに從來の觀念遊戯化する所謂一般陶冶主義の弊を打破して、各自の個性境遇に應じて各人を正しく生かしむべく準備的基礎的の職業的陶冶の徹底を圖ることが小學校に於ける職業指導の眼目であると考へられる。而してその準備的基礎的の廣い意味に於ける職業教育の妥當適切を期する爲には、一面

に兒童に對する自己發見の指導の周到を要する。ブルニア氏が「職業指導といふことは他から、職業を指示することではなく自己に應じたる職業を選定する能力を與ふることではなければならぬ」と言へるは實に至言であるが、夫れは實際に自己發見の基礎の上に於て望まらるべきことである。しかも兒童をして自己を發見せしめんが爲にはいふまでもなく指導者の兒童に對する正しき理解が肝要である。兒童の個性、環境、志望等の調査の切要なる所以は全く茲に存するのである。更に一面に職業調査の必要を認める。吾人は從來餘りに職業の實際について無理解であつた。適材適所の配置とは個々の職業の特異性と各人の特異性ととのバランスを調整するの謂ひに外ならないのであるが、吾人は各人の特異性即ち個性を究める上にも、各職業の特異性即ち職業適性を明かにする上にも甚だ不徹底な態度で過し來つた憾がある。

そこで職業指導の徹底を期するに當つては是非職業調査、個性調査、環境調査、志望調査等に相當の努力を拂はねばならぬと云ふことを痛感するのである。

是等の調査研究と相俟つて適切なる職業的陶冶が深められるやうに爲さなければならぬ。かくして教育的努力に有終の美を齎らしむべく之を開眼的に處置づける意味に於て適材配置に關する施設の進展を圖るべきである。

然れば私は小學校に於ける職業指導施設は須らく左の如く體系づけらるべきであると主張してゐるのである。

我 觀 要 言

(著 者)

我は元、天の生々化育の氣を稟けてこの世に生れ出で、父母のはぐくみと、大君の御稜威と、世の人の情と、天地の恵とによつて、かくは生々不息の活動を續くる身なり。

この身に通へる脉血中には、遠き祖の血沙なほ傳はり、相見しこともなき人の手にて齎す五穀魚介は、化して我が血肉を補ふ。

我が心は、向上自疆、自他交感の妙機不斷に動き、古今中外に涉り、意中當に萬人同座の觀を呈して、心眼次第に開かれ、宇宙の正氣自ら知察せらるゝなり。

由之觀之、我は決して孤立のものに非ず。その所縁は上下四方に遍滿し、その負荷は世々相繼ぐ天地悠久の道程に「人生」五十年の一生涯を捧げて、自他濟度の天意啓沃に任ずる者と謂つべきなり。

されば、我は、常に、不自他犯の戒行につとめ、己が天分を發揮し、衆生の安立に寄與し、以て君親に報ひ天命に對ふべし。

第四章 職業指導施設體系

(甲) 基本的調査

一、職業調査

- 1、各教科書所載の職業的事項の調査
- 2、工場商店官公署等の實地調査
- 3、職業適性の研究

二、個性調査

- 1、學業成績の考査
- 2、個性觀察
- 3、體質検査
- 4、一般智能検査
- 5、特殊性能検査

三、環境調査

1、家庭事情

2、社會狀態

四、志望調査

1、本人の希望職業とその理由

2、保護者の希望職業とその理由

3、希望條件

4、家族の職業に對する兒童の理解感想及び繼承意志の有無等

(乙) 職業的陶冶

一、勤勞陶冶

1、學習の作業化

2、作業及び行動の實務化

3、家事手傳の獎勵

4、手工科并に實業科の振興

二、特能發揮

- 1、平均点過重の時弊打破
- 2、自由學習指導
- 3、課外特別指導
- 4、特技競演會開催

三、職業理解

- 1、各科學習指導上の注意
- 2、職業解説資料の蒐集作成利用
- 3、職業指導讀本の編著
- 4、職業講話
- 5、職業研究の指導
- 6、立志促進

(丙) 適材處置

一、選職及び進學輔導

- 1、職業指導係設置
- 2、受持教師の配慮
- 3、保護者會開催
- 4、保護者召喚又は家庭訪問
- 5、選職相談票の作成

二、就職紹介

- 1、保護者の配慮促進
- 2、紹介所との連絡
- 3、學校の直接推薦

三、就職後の輔導

- 1、就職先への挨拶狀發送
- 2、文書連絡
- 3、新卒業生會、同窓會の開催
- 4、就職先訪問

以上は私が難波高等小學校に於て實施せる事項を列擧したのであるが、曩に著述せる「大衆教の基調」の中の記事との重複をなるべく避け就中主要なる事項について以下章を分つて記述を進めることにしよう。

箴言

(著者)

自己のベストを盡せるその業績と理想とのへだたりをはかる前に、先づその所業の起點に尺度を當てよ。
而しておのづから、求めらるべき絶えざる奉仕的の自己感激こそは眞に我を生かす糧たるべし

第五章 職業調査

第一節 各教科書所載職業的事項の調査

之を行ふて該教材取扱上、兒童の程度に應じて適切に解説敷衍補説を爲して職業理解に資すると共に職業講話との連絡に遺漏なからしめんことを期すべきである。左に之が調査上の着眼點と尋常小學校の國定教科書に記載せる職業的事項とを例示す。

一、職業の意義精神の理解に資すべき教材如何

私は職業の意義を次の如く解してゐる

職業トハ、個人ガ社會ノ活動ノ一部ヲ分担シテ、各自ノ生活安定ト國家社會ノ繁榮トヲ致ス
繼續的勤勞デアル。(職業指導本 職業・參照)

- そこでその職業の意義精神を理解せしむべく左の事項の取扱に特に意を用ふべきであると思ふ
- 1、人生を正觀せしめ、人生と職業との關係を知らしむべき事項
 - 2、共存共榮、相互扶助に對する社會的聯帶責任を自覺せしむべき事項
 - 3、勤勞價值を知らしむべき事項



○柿 讀本卷四

下男太七「ごいんきよさま、そのお年でつき木をなさるのですか。」

隠居「孫へのこしてやるのさ」

孫「この二十五日はおぢいさんの命日ですから澤山取つて供へるつもりです」

○助力 讀本卷七

夏の眞晝の坂道に重き荷車ひきかぬる、人をみかねて物賣はになへる我が荷下に置き、掛聲高くおしてやる。

村の役場に三十年、勤めつゞけし小使の年のよりしがあはれさに、人々物を出し合ひて樂な暮しにかへてやる。

共同助力は人の道、おのれの利のみかへりみず、力を分ち物をさき、苦しむ者を泣く者を助けて共に樂しまん。

○心と心 讀本卷八

軒下にはらばへる黒き犬、にくらしき黒と思へば、黒もまた意地悪き人とみるらん、齒をむきてうゝとうなりて垣を出て行く。

えんがはにうづくまる三毛の猫、愛らしき三毛と思へば三毛もまた慕はしき人と見るらん、尾を立てゝのどを鳴して我にすりよる

○手の働 讀本卷八

大工の家を建て、左官の壁を塗り、船頭の舟をこぎ、農夫の田畑を耕すも皆手の働なり。又筆一本にて美しき繪をゑがき、のみ一ちやうにて見事なるほり物をほりて人を感せしむるも手の働なり。手はすべて仕事のもとにしていそがしき時に手の足らずといふは働く人の少きをいふなり。

○胃とからだ 讀本卷八

……世の中といふものはすべて相持のものです。

○開墾 讀本卷一〇

父曰く、「みんなが手を揃へて働けば、來年の秋はもう眞白な蕎麥の花でこの地面が埋まつてしまふのだ」

○仕事にはげめ 修身卷四

圓山應舉の苦心

○ 志を堅くせよ 全上

ジェンナーの種痘發明の苦心

○ 五代の苦心 讀本卷九

佐藤信淵……終に當代第一の農學の大家となつて國家の爲に富源を開發することが甚だ多かつた。

父信季曰く……志あるものは事終に成る云々

○ 勤勞 修身卷五

伊豫の筒井村の作兵衛曰く……この村に荒れた田地の多いのは、私どもの骨折がまだ足りない爲だと思ひます。私は出来るだけ働いて悪い田地をよい田地に仕上げ村の爲になるやうにしたいと思ひます。

○ 松坂の一夜 讀本卷一

加茂真淵曰く「あなたはまだお若いからしつかり努力なさつたら、きつとこの研究(古事記)を大成することが出来ませう。たゞ注意しなければならぬのは順序正しく進むといふことです。これは學問の研究には特に必要ですから、先づ土臺を作つてそれから一步步々高

く登り最後の目的に達するやうになさい。」

……本居宣長は三十五年間努力に努力を續けて遂に古事記の研究を大成した。有名な古事記傳といふ大著述はこの研究の結果で我が國文學の上に不滅の光を放つてゐる。

○ 孔子 讀本卷一

「おのれを修めて人を安んず」「發憤しては食を忘れ、樂しんではうれひを忘れ老の將に至らんとするを知らず」と、その身を忘れ、よはひを忘れて人生の爲に盡くしたる大聖の面目よくこの語にあらはれたりといふべし。

○ 鐵眼の一切經 讀本卷一

鐵眼がこの大事業を思ひ立ちしより十七年即ち天和元年に至りて一切經六千九百五十六卷の大出版は遂に完成せられたり。……この版木は今も萬福寺に保存せられ三棟百五十坪の倉庫に満ちくたり

○ 畫師の苦心 讀本卷一

泉州堺のながし寺に宿れる畫師……「先に畫きたる檜、何となく物足らぬ所ありて氣にかゝりしが東國へ下る路すがら箱根山中によき枝ぶりの檜を見て、その意を得たれば、か

き添へんために歸りしなり。』……………

○ 人と火 讀本卷二一

「必要は發明の母である」……………人は生活上の必要から發火法を工夫し・燃料を研究し・熱と光とをあらゆる方面に利用することを考へて來た。然し熱や光の作り方や利用の方法は決してこれで完成したといふわけではあるまい。將來は又どんなものが發明されるかも知れない。

○ 貨幣 讀本卷二一

このやうに便利なものもその使用に馴れきつてしまつてゐる我々は、これについて事新しく便利を感じることもなく、又之を考案した昔の人々に對して別段感謝の念を起すこともない。

○ 公益 修身卷六

フランクリンは自分の住んでゐるフィラデルフィヤを立派な所にする爲にいろ／＼と力を盡しました。

(一) 知人と相談し資金を出しあつて圖書館をこしらへた……………そのおかげでこの地方の人

々の知識がだん／＼進んで來ました。

(二) 新聞紙を發行した。正しい有益な記事を載せたので大層世の爲になつた。

(三) 火事の豫防法を印刷して配り同志の者を集めて消防組を作つた。それで火事の損害が少くなつた。

(四) 工合のよいストーブを發明したので「專賣特許を願出てはどうか」といつてすゝめる友人もあつたが「廣く行渡れば人の爲になることだから」といつて聞き入れなかつた。

その他中學校を立てたり、有益な曆を工夫して發行したり、街路を改良したり、病院を開いたりして公益の爲に力を盡した。中でも……………避雷針を發明して廣く世人を益したことは有名な話である。

二、産業の發達を説ける教材如何

○ 進取の氣象 修身卷五

伊藤小左衛門が製茶製絲の業を始めたのは横濱の港が開けた頃で、外國では茶や生絲がたくさんいることに目をつけたからであります。茶の實を蒔いて培養のしかたを研究し、製茶の

法にも工夫を積んだので数年の後にはたくさん茶が出来るやうになりました。又地方の人々にも茶の木を植ゑることを勧めました。

又桑を植ゑて蚕をかひ製絲の業を興しました。初は僅か二人の工女を雇ひ、手ぐりで絲をさらせてゐましたが次第に人数を増して仕事を大きくしました。その後小左衛門は「これまでの仕方ではとても外國にむく品は出来ない」と言つて新しい機械をすゑて、生絲を製することを始めました。……小左衛門は進取の氣象に富んでゐるから、いろ／＼の困難に屈せず一生けんめいに改良をはかりました。かやうに苦心をかさねた末どう／＼外國商人等もほめるほどのよい品が出来るやうになりました。その爲にこの地方の製絲の業もだん／＼盛になりました。

○陶工柿右衛門―讀本卷一〇

……窯場から出て来た喜三右衛門は縁先に腰を下してつかれた體を休めた。日はもう西にかたむいてゐる。ふと見あげると庭の柿の木にはすゞなりになつた實が夕日を浴びて珊瑚珠のやうにかゞやいてゐる。喜三右衛門は……「あゝきれいだ、あの色をどうかして出したものだ」とつぶやきながら又窯場の方へどつて返した。喜三右衛門は其の日から赤色の焼

付に熱中した。……しかしいくら工夫をこらしても目ざす柿の色の美しさは出来ない……一年と過ぎ二年とたつうちに其の日の暮しにも困るやうになつた。弟子たちも一人逃げ二人逃げ今は手助する人さへも無くなつた。……漸く柿の色を出す事に成功した喜三右衛門は程なく名を柿右衛門と改めた。柿右衛門は今から三百年ばかり前紀州の有田にゐた陶工である。彼はこの後も尙研究に研究を重ね工夫に工夫を積んで、世に柿右衛門風といはれる精巧な陶器を製作するに至つた。柿右衛門はひとり我が國內において古今の名工とたへられてゐるばかりでなくその名は遠く西洋諸國にまで聞えてゐる。

○輸出入―讀本卷一〇

毛織物の原料になる羊毛は我が國では殆んど産しないからオーストラリヤ、南部アフリカなどから輸入する。機械類は近年我が國でも盛に製造されるやうになつたが、物によつてはやはり外國の品を買つた方が得な場合が少くない。……我が國は種々品物を輸入してゐるばかりでなく國內で出来た物を外國へ輸出することもなかく多い。……又外國から原料を輸入しそれに加工して更に外國へ輸出することも少くない。綿花は主に印度やアメリカ合衆國から輸入し、それに加工して綿絲や綿織物を造る。これらの製品は我々の使ひ料にも

なるが又支那印度其他の東洋諸國へ輸出される。支那の豚の毛が輸入されて日本でブラシに造られ又支那へ輸出されるなども同じ例である。……………

○工夫―修身卷六

久留米絣を發明したのは井上でんといふ人です。でんは……………「ごうかして世間のない目新しい物を織り出したい」と思つて常に工夫をこらしてゐました。或日でんは着古した黒い地の仕事着があちこち白くすれて模様かと思はれるやうになつてゐるのに氣がつかしました。これは面白いと思つてはぐして糸にして見ると黒い糸が所々白くなつてゐるので黒と白の斑の糸を織ればきつと面白い模様の織物が出来るに違ないと考へつきました……………それからいろ／＼と改良を加へて後には非常に手の込んだ模様でも織れるやうになりました。久留米絣は今日では誰でも知らない者が無い位に廣く用ひられてゐます。

○國運發展―修身卷六

我が國は古來瑞穂國と稱し、農業を以て國の本とせり。されば耕作の方法は夙に進歩し諸外國と比較してさしたる遜色を見ず、又四面海を環らせるを以て水産業は古より甚だ盛にして現今に於ては世界各國中に一二を争ふ勢を示せり。然るに昔は士農工商とて工商を賤む風あ

りしかば随つて商工業に於ては發達の見るべきものなく其漸く隆盛となりしは維新以後の事なり。これを商業につきて見るに維新以前に於て商業の經營に當りしものは概ね小資本の個人商店にしてその取引の範圍も國內殊に一地方に限られたりしが、維新以後商業會社漸次増加し……………多くの人々より集めた大資本を擁して嘗に國內のみならず諸外國とも盛に取引を爲すに至れり。かくて明治元年には輸出入額合計凡そ二千六百萬圓に過ぎざりしものが近年に於て四十四億圓以上に達せしことあり。次に工業の方面に於ても昔の家内に於ける手工業は維新以來次第に工場に於ける機械工業に進み明治五年には工場數僅かに千餘なりしに今日に於ては四萬六千以上に達し紙絲織物其他諸種の生産物を大規模に製造するに至れり。

三、職業の種類及びその内容についての理解に資すべき教材如何

○日本―地理卷一

……………したがつて農業林業鑛業水産業がそれ／＼相當に發達してゐるのみならず工業も發達し内外各地の原料を使用して盛に種々の工業品を造つてゐる。これと共に商業も發達して諸外國との貿易も盛である。又道路鉄道航路も開け郵便電信電話なども行きわたつて内

外の交通が海陸共に便利である。

△ 農業に關すること、

○ 日本の總説—地理卷二

我が國の耕地は總面積の一割餘に過ぎないが、氣候地味共に農業に適してゐるので農業は古來我が國第一の産業となつてゐる。農産物の主なるものは……その用途……需用關係……人口は年々増加して食料の需要が多くなり又工業の發達するにつれて原料の需要も増加する。然るに耕地の擴張、農業の發達はこれに伴はないから今後農産物の輸入は益々多くなるであらう。……肥料……

牧畜……我が國は氣候地味地勢の關係上牧畜はあまり振はない。殊に羊の牧畜は進まないから近年著しく需要を増してきた羊毛は全部毛織物は一部分之を外國から輸入してゐる。

養蠶業……我が國は世界で一、二を争ふ養蠶國で、繭の産額が多く生絲絹織物の製造の技術も進んで其の製造高も多い……主産地……生絲は我が國第一の輸出品で羽二重も主なる輸出品の一つとなつてゐる。この二品は何れも大部分が横濱からアメリカ合衆國及び

フランス、イギリスに送られるのである。

森林業……その面積が我が國の總面積の約五割に當つてゐて各地で木材が伐出されてゐる。木材の主なるものは……産額が年々増加してゐる。木材の産額が増加するにつれて製材業も發達してきた……。木材は産額が少くないにもかゝらず需要が年々増加するので不足を告げアメリカ合衆國カナダから輸入したもので之を充してゐる。バルブの製造業も近年漸く進歩し……今や需要の大部分を充してゐる。

○ 養鶏—讀本卷九

……… 机の引出より養鶏日誌を出し「四月二十五日朝卵二つ」と記入す。父上の命にて養鶏は今年より僕等の仕事となり、日記をも渡されたれば鶏の事は總べて之に記入し置くなり。………

○ 馬市見物—讀本卷一〇

二歳駒の市が十日間も續いてその間には千頭からの賣買があり、値段も一頭四千圓五千圓といふ高いのがあるさうです。これ等の馬が日本全國に散らばつて或は軍馬となり或は馬車馬になり或は耕馬になるのださうです。

○ 傳書鳩 讀本卷一〇

……鳩を通信に使つたのは餘程古い時代からの事で殊に一時は非常に盛に行はれたが、無線電信などが發明せられて以來、自然輕んぜられるやうになつた。ところが先年の歐洲大戰でやはりこのやさしいしかも勇ましい通信者の働の偉大な事が証明せられたので、今では各國共に盛に傳書鳩の改良に力を用ひその飼養を奨励してゐる。……

○ 温室の中 讀本卷一〇

○ 十勝の平原 讀本卷一一

この邊の農業は總べて規模が大きい……一枚の畠でうねが五町も十町も永々と續いてゐるのが少くない。こんな廣い畠であるから耕すにもうねを作るにも種を蒔くにも大抵機械と馬の力による。中にはトラクターを用ひて全く大農式にやつてゐる處もある。トラクターはちやうど軍用のタンクのやうな形でガソリンの發動機が取付けてある。これが大きな鋤を何本も引いてものすごいなり聲を立てながらのそり／＼と歩き廻ると二間幅位に耕されて行く……農業者は多く古い習慣になづみやすいものであるが、此の邊では新しい知識をいれて新式の農具を用ひ新式の方法によつてどし／＼土地を開いて行くはてしもなく續く廣野

の中で人々は自由な大氣を呼吸しながら土の香に親しんで樂しげに働いてゐる。

○ 炭 讀本卷八

或日炭を焼く男が太郎のうちへ來て……太郎が炭はどうして焼くのかときくと其の男は「ていねいに教へてくれた。……炭に焼く木は主にならとくぬぎで、くぬぎの炭の方が火持がよい。」

○ 植林 讀本卷一一

おとうさんが「早く間伐して細材を取る目的のところでは、一坪に二本も三本も植ゑるがその邊では太材を取る方が利益だから、かう間をおいて植ゑるのだ。今にご覽このくらゐ雖して植ゑても十五六年目には間伐をしなければならぬやうになるから」といつて笑つてをられた。……補植のこと……下刈のこと……枝打のこと……僕がお手傳して植ゑたあの杉や檜は何時になつたら伐るのだらう。使ひみちによつて三十年目から五六十年目ぐらゐの間に伐るのださうだから、一番早く伐るとしても其の時は僕がおとうさんくらの年になつてゐるわけだ。……おとうさんはよく「植林は貯金のやうなもので植ゑてさへおけば年々太つて利息が附いて行く」とおつしやるがほんとうにさうだ。……

○ ゴム—讀本卷一—

自動車自轉車のタイヤ、ゴムまり、ゴム人形、消しゴム、ゴム靴、ゴム管、ゴム風船など數へてみると、ゴムで造つたものは實に多い。……ゴムは熱帯地方に産する或植物からとる白色の液を原料として製造したものである。此の液の取れる木を普通にゴムの木といつてゐる。ブラジル邊では自生するゴムの木から原料をとる……マレイ半島には英國人がバラゴムを移植してゐる……南洋のゴムの栽培が頗る盛になつた。マレイ半島、蘭領東印度等には日本人の經營せるゴム園が澤山にある。ゴムの栽培法……切付を行ふまでには五、六年もかゝる。その間草を取つたり虎や象の荒しに来るのを防いだり、苦心はなか／＼一通りでない。切付……ゴム液は幹の皮部と木質部との間にある乳管組織といふ所から出るのであるから、この組織の所まで小刀が届いてしかもそれより深くは傷のつかないやうにしなければならぬ。それで切付には餘程熟練を要する。……原産地に於ける仕事はゴム液を固まらせ機械で薄くにして乾かすところまでゝある。……

△ 水産業に關すること

○ 日本の總説—地理卷六

近海には暖流寒流があつてそれ／＼特有な魚類が多く、随つて水産業は盛である。……水産物の中漁獵高の最も多いのは……その漁場……その用途……販路……製鹽のこと、養殖業のこと……

○ なぎ—讀本卷六

……沖ものごか、濱ものごか、沖へ急ぐ兄の小舟、濱へ歸る父の小舟、すれ合つてゑがほとゑがほ。

○ 捕鯨船—讀本卷一〇

○ まぐろ網—讀本卷一一

△ 鑛業に關すること

○ 日本の總説—地理卷六

鑛産物の主なるものは……石炭……銅……金鑛……石油……鐵鑛……その産地、産出額、需給狀況等のこと、

○ 炭坑—讀本卷一一

この間九州三池の或炭坑を見物しました……坑外へ出ると急に夜が明けたやうで日光の

有難さをしみ／＼感じると共に、この坑内でたえず活動してゐる坑夫の仕事をたふさぐものに思ひました。……………

△ 工業に關すること

○ 日本の總説—地理卷六

我が國は石炭の産出が多く水力の利用も容易であるから交通機關の發達學問技術の進歩と共に工業は近年長足の進歩をなし、各地に諸種の大工場が出來て主として機械力によつて内外國産の原料から多量の工業品を製造してゐる。これがために今では我が國が世界有数の工業國となつてゐる。……………主なる工業地區……………工業品の主要なるもの……………織物の發達に伴つて色染工業も進歩し、染料の産額が増加して來た。これらの工業品は國內の需要を充たすのみならず外國へも輸出する。

○ 石安工場—讀本卷九

石碑を刻む 文字をほる、槌音、のみ音かしましき……………店に飾れる石燈籠、頭の長き福祿壽、腹のふくれし布袋和尚、ぼたんにくるふ唐獅子も、玉をふくめるこま犬も、皆おぢいさんののみのおと、ちいさん今年六十の坂を越え、足もとに大いなる石横たへてなほ怠らす

こつ／＼と何をか常に刻みゐる。めがねを掛けてはつび着て……………

○ ガラス工場—讀本卷一

原料を調合するところ……………マスクをかけた職工が硅砂にソーダ灰や石灰石の粉を入れてかきませてゐた。シャベルでざく／＼かきまけると白い粉が一面に煙のやうに立ちのぼつて目も口もあけられない。こんなところで毎日働いてゐる人たちはごんなにつらいことであらうと思つた。……………熔解窯がある……………フラスコ、臺付のコップがつくられてゐた。……………加工場……………調べかほの廻るにつれて石や木や金の圓板が車輪のやうに廻つてゐる。エプロンをかかけた職工がガラスの皿やコップなどをこの圓板にあて、模様をほりつけたり、みがきをかけたりしてゐる。……………隣りの室では職工がガラス器にいろ／＼の模様をつけてゐる。

○ ゴム—讀本卷一

……………ゴムは原産地から各國の工場に運んで加流法を行ふ。加流法とはゴムに硫黄をまぜること、かうするとゴムが非常に弾力を増して來る。之をそれ／＼用途に應じて更に加工するのである……………エポナイトもゴムから造る。近來床の敷物や道路にもゴムを用ひるこ

どが行はれて来た、ゴムの用途は年を逐うて益々廣くなるばかりである。

△ 商業に關すること

○ 日本の總説—地理卷六

貿易……………産業が發達し交通が進歩すると共に貿易も年々盛になり年貿易額は三十億圓を
超えてゐる。随つて我が國は今では世界の主なる貿易國である。輸出品の主なるもの……………
その輸出先……………輸入品の主なるもの……………その輸入先……………我が國の主なる開港場
……………主なる取引先……………

○ 銀行—讀本卷一

……………銀行は有餘つてゐる人からお金を預つて資金の足らぬ人に貸附けるのだ。貸附の利
子は預金の利子より高くしてあるから其の差だけが銀行の収入になるのだ……………

△ 交通業に關すること

○ 日本の總説—地理卷六

産業の發達に伴つて道路や鉄道も著しく延長して國內の陸上交通が便利となつたのはいふま
でもなく、國內の諸港は航路によつて互に連絡しその主なるものは諸外國の諸港とも航路が

相通じて内外共に海上交通の便が大いに開けて来た。又航空事業も盛にならうとしてゐる。

……………それ故我が國は世界有數の海運業國として知られるやうになつた。……………

通信業……………郵便電信電話の線は國內到るところに通じて通信の便は殆ど完備してゐ
る。外國航路が發達するに従つて諸外國との郵便は益々便利となり又海底電線に依つて世界
の各地と連絡してゐるので電信も便利になつてゐる。無線電信も次第に發達して航海中の船
との通信の外諸外國との通信も出来るやうになつた。又無線電話も己に實用に供せられるや
うになつた。

△ 公務自由業に關すること

○ 看板—讀本卷八

……………すべて看板は商品又は職業の名、屋號等を記して人目につきやすからしめんとする
ものなり。……………看板の種類はきはめて多し……………

○ 軍艦生活の朝—讀本卷九

總員起し……………兩舷直、整列……………上甲板洗ひ方……………總員顔洗へ……………煙草盆出
せ……………食事……………軍艦旗掲揚……………君が代……………乗員一同は皆姿勢を正して軍

艦旗に敬禮する……軍艦旗を仰いで心の底まで清められた乗員はこれから訓練に取掛るのである。

四、選職及び求職上の心得に關する教材如何

○志を立てよ——修身卷四

豊臣秀吉は小さい時からえらい人にならうと志を立て、ゐましたが……その後織田信長がすぐれた大將であるといふことを聞いて、つてをもとめて信長のざうりとりになりました。これから秀吉はだん／＼出世をしました。

○分業——讀本卷八

マッチはちよつとした物で價も安く一包十箱が十錢くらゐで買はれる。しかし之を一人で造るとしてこんな安く賣れるであらうか……マッチの製造所へ行つてみると職工が大勢居つてそれ／＼手分けをして働いてゐる。……分業で造ると其の出來がよいはかりでなく出來高がたいそう多くて一人々々別々になつて造るのは比べものにならない。したがつて一包のマッチを十錢ぐらゐに賣つても相應にまうかるのである。……分業で仕事をする時誰か一人の手ぎはが悪いと全体の出來まで悪くなる。やはり世は相持のものである。

○確かな保証——讀本卷一〇

外國の或商會で新聞紙に店員入用の廣告を出した。申込んで來た者は五十人餘もあつて中には知名の人の紹介状を持つて來た者や立派な學歷のある者もあつたのに主人はそれ等の人々をさしおいて或一人の青年をやとひ入れた。後日人が主人に向つてどういふお見込であの青年をお用ひになつたのかと尋ねた。主人は答へて……きれいすきでつ／＼しみ深いことが分りました。……人に親切なこと……はき／＼して禮儀をわきまへてゐること……注意深いこと……着物は粗末ながらさつぱりしたものを着て、齒もよくみがいてゐました。爪は短く切つてゐました。かういふ点からいろいろの美質をもつてゐることをよく見定めてあの青年をやとふことにしたのです。りつばな人の紹介状よりも何より本人の行がたしかな保証です。……

五、就職後の心得に關する教材如何

○五一ちいさん——讀本卷三

……しごとなされよ、きり／＼しやんと
かけたたすきの切れるまで。

○ 仕事にはげめ 修身卷三

二宮金次郎は十二の時から父にかはつて川ぶしんに出ました。しごこをすまして家へかへると夜おそくまでおきてゐてわらぢをつくりました。さうしてあくる朝そのわらぢをしごこばへもつて行つて「私はまだ一人前の仕事が出来ませんので皆さまのおせわになります。これはそのお禮です」といつて人々におくりました。

○ 木下藤吉郎 讀本卷七

大雪の朝——信長「誰か居るか」……藤吉郎玄關に出づ 信長「いつもより早いのによく參つて居つた」藤吉郎「いつも人より一小时前に參つて居ります」「一時も前に」といつて信長は驚いた……信長「寒からうが」藤吉郎「少しも寒くはございません……これが御奉公だと思ひますれば少しも寒くはございません……これがそも／＼藤吉郎出世のいとぐちである。

○ 自立自營 修身卷四

近江の高田善右衛門常に自分の子供に教へて「自分ははじめから人にたよらず自分の力で家をおこさうと心がけて、せいでして働き又その間儉約を守り、正直にして無理な利益をむさ

ぼらなかつたので、今のやうな身の上となつたのである」といつてきかせました。

○ 志を堅くせよ 修身卷四

イギリスのジエンナーはふとした事から牛痘をうゑて疱瘡を豫防することを思ひつきました。友だちはそれをあざけり笑つて「つきあひをやめる」とまでいひました。それでもかまはず二十年あまりの間さまざまに工夫をこらしどう／＼種痘の法を發明しました。……ジエンナーはその後もいろ／＼と悪口をいはれましたが、ます／＼志を堅くして研究をつゞけてゐました……今では我等もそのおかげをかうむつて居るのであります。

○ 兄弟 修身卷五

伊藤小左衛門は伊勢の室山村の人で味噌醬油の製造を業としてゐました。三人の弟があつて互に心を合せて家業に勵んだので室山味噌の評判が世間にひろまりました……

○ 老社長 讀本卷九

……あの社長さんはもと上方の人でこの町へ始めて奉公に來たのはちやうどお前と同じ十二の年だつたさうだ。主人の家は大きな醬油屋であつたので、始めは近在の小賣店へ毎日降つても照つてもおろしに歩き廻つたものさうだが、そのつらさはとてもお前たちにはわか

るものではない。……………

○リンカーンの苦學―讀本卷一―

アメリカ合衆國第十六代の大統領リンカーンは今から百年餘り前ケンタッキー洲の片田舎の貧しい家に生れた。……………リンカーンは父の手助をして忠實に働くと共に非常な熱心と努力を以て勉強をつづけた。彼が他日大統領となり世界の偉人として萬人に仰がれるやうになつたのは實に此の少年時代の苦心のたまものである。

○のぶ子さんの家―讀本卷一―

……………お暇してから私はひとり歩きながら自分の始末のわるいことを考へてつくづく恥づかしくなりました。「これまで自分の不整頓のためにむだに費した時間と労力は大きなものであつた。整頓といふのは體裁をつくることではなくてむだをなくすることだ」と思ひました。

○自立自營―修身卷六―

フランクリンは今から二百餘年前に北アメリカのボストンで生れました。家が貧乏な上に兄弟が多いので十歳で學校をやめて家業の手傳をしました。しかし幼い時から讀書が好きで小

遣錢をためては本を買ひ少しでも暇があると熱心にそれを讀みました。そのために早くから儉約と勉強のよい習慣がつかしました。十二歳の時兄の印刷工場で仕事を習ふことになりましたが、子供ながらもよく働いて仕事を覚え間もなく一人前の職工になりました。十七歳の時ファイラデルフィヤに行つてある印刷工場に雇はれました。そこで一生けんめいに働いて遂に二十四歳の時には獨力で印刷業を經營し長くファイラデルフィヤに住居するやうになりました。……………

○勤勉―修身卷六―

伊能忠敬は上總に生まれ十八歳の時下總佐原村の伊能氏の家をつぎました。伊能氏は代々酒や醬油を造り土地で評判の資産家でしたがその頃は大分家が衰へてゐました。そこで忠敬はどうかしてもこのやうにしようと思つて一生けんめいに家業に勵み自分が先に立つて儉約をしたので家も次第に繁昌して四十歳になる頃にはもとよりも豊かになりました。それで關東に二度も飢饉があつた時二度とも金や米をたくさん出して困つてゐる人々を助けました。また公職について村の爲に盡しました。……………五十歳になると家を長男に譲りました。しかしそのまゝ樂をしようとはせずこれから一心に學問をしようと思つて江戸に出て高橋至時と

いふ天文學者（忠敬より十九も年下）の弟子となり數年間倦まずたゆまず勉強したので同門中及ぶものがない程學問が上達しました。五十六歳の時幕府の許を受けて北海道の東南海岸を實地に測量して地圖を作り……七十二歳で日本全國の測量をすましました。我が國の正しい位置や形狀が始めて明らかになつたのは全く忠敬の手柄です。

第二節 職業の實地調査

更に教師が進んで實業界の實情を探り各種の職業に關する知見を擴め以て教育上の參考に資し、かねて學校と社會との連絡を緊密ならしめんことを期して私は赴任後間もなく先づ職員全員が兒童の通學區域内を夫々分担して毎月一、二回宛工場商店及び官公署等を訪問して凡そ左記事項について調査することにした。さうしてその調査先に卒業生又は在校生が居ればその勤務狀況なり家庭生活の狀態なりを承合し、又便宜生産品見本の寄贈方を依頼することもあつた。

○ 工場及び商店に關する調査要項

一、名稱

二、位置 (電話番号)

三、營業内容

四、經營の規模及び沿革

1、組織

2、従業員

- 3、原料(商品)受給(仕入)先
- 4、製造(販賣)高
- 5、販路
- 6、其他
- 五、少年工(小店員)採用の有無
- 六、少年工(小店員)の主なる仕事とその勤務時間
- 七、その職業では身体上特に如何なる部分の働を要するか
- 八、如何なる性質の者が適するか
- 九、學力程度に對する要求
- 一〇、年齢は凡そ何歳位からがよいか
- 一一、如何なる性質又は身体の者は到底望みなきか
- 一二、少年工(小店員)採用の方法
- 一三、年期制度ならば、その期間、住込か、通勤か、待遇は、その他の雇傭條件は?
- 一四、一人前になるには凡そ何年を要するか

- 一五、一人前になつての收入?
 - 一六、少年工(小店員)の修養及び保護の施設
 - 一七、將來該業で身を立てんが爲には如何なる順路を進むのが最もよいか
 - 一八、從來該業で一人前にならずに中途で止めた者の主なる原因等
- かくして後、各自の分担地域を撤し左記の業種別分擔によつて、隨時適宜の方法で之が調査研究を進める事と爲し、その調査記録を互に参考しあふことにしたのである。
- 窯業金屬工業紙工業(一人) 機械器具木竹類に關する製造業土木建築業瓦斯電氣業(一人) 化學工業(一人) 纖維工業(一人) 皮革骨角甲羽毛品類製造業(一人) 製版印刷業(一人) 飲食料品嗜好品製造業(一人) 被服身廻り品製造業(二人) 學藝娛樂裝飾品製造業(一人) 物品販賣業(二人) 媒介周旋業(一人) 金融保險業(一人) 旅宿飲食店浴場理髮業(一人) 通信業(一人) 運輸業(一人) 軍人(一人) 醫業(一人) 内職調査(一人) 職業婦人に關する調査(一人) 職業解説圖表作成(一人)

第三節 職業適性の研究

學者専門家の研究と實際家の所見とを參按して之が實際指導に必要な事項を究明せんければならない。

一、各種職業の必要性能を確かむること

クラウス氏は金屬工業—機械製作工・旋盤工・模型製作工・鍛冶工・鑄物工・鋳力工・裁斷工・鑄型製作工等についてその必要性能を

1、純精神能力

- イ、文語・筆跡・作文・綴字
- ロ、計算
- ハ、熟慮（技術的思考）
- ニ、空間表象
- ホ、記憶再生
- ヘ、注意力

ト、理解力

2、技巧又は意志的能力（精神身体的能力）

- イ、反應力
 - ロ、目測
 - ハ、技巧力
 - ニ、作業の律的調節
 - ホ、微細なる觸覺辨別
- #### 3、純身体的特性
- イ、體力
 - ロ、力量・作業に對する耐久力
 - ハ、感覺的特性

等の諸項を擧げて夫々絶對に必要・大いに必要・稍必要・不必要を分つてゐる。

エリスマン氏は九種の中等職業—電車運轉手・金屬職工・機械製作工・販賣店員・印刷工（機械印刷工を除く）・タイピスト、電話交換手・農業（小作人、牧畜者）、高等職業（齒科醫）につ

いてその必要性能を

1、身體的性能

- イ、體力
- ロ、寒冷、病氣、有毒物に對する抵抗力
- ハ、神經系統の抵抗力

2、病的素質

- イ、呼吸器病
- ロ、心臟病
- ハ、リウマチス
- ニ、癩 痢

3、感覺

- イ、目 測（視力）
- ロ、遠近知覺
- ハ、觸 覺

4、運動能力

- イ、運動速度
- ロ、突然刺戟に對する反應速度
- ハ、運動確度
- ニ、複雜運動
- ホ、両手の協同作業

5、記憶又は直觀的表象力

- イ、視覺的記憶
- ロ、聽覺的記憶
- ハ、運動的記憶

6、注意

- イ、妨碍刺戟に抵抗する注意（注意の集中）
- ロ、注意の分配（範圍）
- ハ、注意の持續

7、意志

- イ、意志の耐久力
- ロ、確實迅速なる決斷力
- ハ、困難に對する抵抗力
- ニ、情緒の激動の抑制

8、思考

- イ、思考の迅速
- ロ、思考の確實
- ハ、空間的結合力
- ニ、精神的運動性
- ホ、一般智能

9、其他の能力

- イ、技術能力
- ロ、計算能力
- ハ、秩序の感
- ニ、忍耐心

等三十四項を擧げて、優良なることを必要とするもの、普通水準以上を必要とし又は優良なれば好都合のもの、必要の少きか又は不必要のものを區別して居る。

アルバート、フート氏は職業に必要な精神的及び道德的事項として左の諸項を列擧して居る。

甲、智能の補助的機能に關する必要事項

- 1、注意（範圍・不變・集中・轉回其他）
- 2、把握能力及び觀察力
- 3、記憶及び再現
- 4、想像

乙、智能の主要機能に關する必要事項

- 1、記述・命名（特性の看取（例へば不明瞭に書かれた手記の認知）
- 2、區分及び比較（視覺的・聽覺的・觸覺的印象）
- 3、結合及び完成
- 4、批判力及び理解力
- 5、抽象及び思考
- 6、推論及び判斷

丙、智能の表現に對する必要事項

- 1、精神的所有物の組織形式（聯想の確固及び豊富、主觀的又は客觀的調節）
- 2、順應及び感入力

(一) 職業は如何なる知的能力を要するか

(二) 職業は如何なる情緒的能力を要するか

- 甲. 感情生活に對する必要事項
 1. 一般的情的氣分、快活にして友誼的人物、感情及び情緒の活潑
 2. 發達せる自己感情
 3. 發達せる尊敬の感情
 4. 發達せる美的感情
 5. 動植物の好愛
- 乙. 意志生活に對する必要事項
 1. 作業經過及び疲勞、練習能力、仕事振り
 2. 手の熟練、運動の發達、器用
 3. 意志力及び專斷力(忍耐、努力、身体的苦痛、高く深き氣質、饑渴其他)
 4. 勤勉と持續
 5. 落付と冷靜
- 丙. 獨立性及び指導的性質に關する必要事項

(三) 職業は如何なる道徳的能力を要するか

- 甲. 所謂間接的道徳性に關する必要事項
 1. 善良なる交際振り、禮節優雅
 2. 秩序と清潔、衛生上の法則を守ること
 3. 細心、正確、きちようめん
- 乙. 道徳的價値に關する必要事項
 1. 名譽を重んじ眞實を愛すること
 2. 従順と服従、同僚間の信頼
 3. 良心及び責任感
- 丙. 抵抗力に關する必要事項
 1. 不道徳の危險に對して
 2. 飲酒欲の危險に對して
 3. おしやれの危險に對して

二. 一般智能并に特殊性能と職業との關係を明かにすること
稻葉・小野両氏著「我が子の職業」には一般智能と職業との關係を左の如く思量されてゐる。

1、智能A級(高、四分の一)の適職

専門的職業とか智能的職業とかいはれる精神的の勤勞を大いに要求する職業、例へば教職、政治家、藝術家、文士、學者、宗教家、醫師、高級官吏事務員等

2、智能B級(O₂—O₃)の適職

一般普通の職業中で比較的高級なもの、例へば簿記係、書記、看護婦、電信技師、齒科醫、下級行政官、鉄道事務員、實業家等

3、智能C級(O₂—O₁)の適職

思考を餘り必要とせず經驗と練習によつてやつて行ける技術、小規模の事業經營、例へば電話交換手、機關工、一般機械工、大工、鍛冶等

4、智能D級(低、四分の一)の適職

主として筋肉的職業である。集配人、雜役夫、農耕人、仲仕、火夫、工夫、下級職工、運搬夫、家畜番人等

特殊性能と職業との關係について參考に資すべき所說中左の如きものがある。

1、注意

- イ、集中||科學者、精密機械工、運轉手、金錢出納係、其他危險を伴ふ職業
- ロ、範圍||飛行家、運轉手、文選工、監視人、紡績女工、タイピスト等
- ハ、持續||運轉手、電信技師、音樂家、監視人等
- ニ、抵抗||官公吏、工場事務員、聲樂家、藝人、製圖家、技師等

2、記憶

- 機械的記憶
- イ、視覺的||教員、保姆、將校、接客本位の職業、畫家
 - ロ、聽覺的||音樂家、電信技師、交換手、醫師
 - ハ、味覺的||料理人、菓子其他飲食料品製造業者
 - ニ、嗅覺的||香料製造業者、料理人、香料を用ふる工業
 - ホ、觸覺的||印刷業、紙屋、呉服屋、彫刻家、洋服商
 - ヘ、筋覺的||器樂家、速記者、タイピスト、飛行家、運轉手
 - ト、時間的||音樂家、作曲家、寫真師、映畫技師
 - チ、位置的||雜貨商、藥種商、荒物商、倉庫業者、案内人、配達夫
- 論理的記憶||學者、研究家、辯護士、辯士、法官、行政家

3、比較辨別||校正係、化學分析技師、藥品類製造業、染色業、塗工師、旋盤工



- 4、推理判斷||中等智能職以上は何れも之を必要とする
- 5、聯想||多くの職業に必ず之を必要とするが、之に反對、部全、類似の制限的のもの全く自由なるものがあり、又視覺型、聽覺型、運動型の別があるから選職上その特性によつて相當配慮を要する。
- 6、構成本力||小説家畫家等にも必要であるが、高等なる精神能力を必要とする職業及び工業的職業には特にこの性能を必要とする。
- 7、反應力||飛行家、運轉手、機關士。
- 8、運動速度||一般の職業に之を必要とする。
- 9、確度||仕事が高級になるに従つてこの性能をより多く必要とする。
- 10、調節||左右兩手、手と足の運動等の調節の必要な職業、例へば旋盤師、ミシン職、飛行家。
- 11、空間知覺
 - イ、視空間知覺||建築家、畫家、指物師、精密機械工
 - ロ、觸空間知覺||手先の器用なることを要求する職業
 - ハ、聽空間知覺||飛行家、運轉手、船長

三、心身障害と免除職業についての研究を爲すこと
 曩に内務省社會局にて調査せるものを左に掲ぐ

障 害	職 業
全 身 的 衰 弱	鑄工、鑄造工、車匠、粉挽夫、屠殺夫、舖工、海員、鑄型工、鍛冶工、指物師、麵粉焼、井戸工、大工、看護人、園丁婦、農業手傳婦、紡績女工、體操女教師、家政婦等
脚 疾	農夫、門番、彫刻家、電機工、鑄物工、索工、樵夫、牧夫、錠前工、轆轤工、鑄工、鑄型工、車匠、機工、旋盤工、鍍金工、屋根工、粉挽工、床屋、給仕番、齒科技工、指物師、植字工、麵粉焼、屠殺夫、製帽工、料理屋
脱 腸	石磨、錠前工、指物師、皮揉工、旋盤工、麵粉焼、左官、轆轤工、鑄型工、鍛冶工、車匠、桶屋、大工、屠殺夫、紛挽工、看護婦、料理婦等、
脂 手	鐵砲工、金細工工、機械工、時計工、製本工、鍍金工、屠殺夫、製帽工、裁縫屋、寫真師、料理屋給仕、齒科技工、電機工、レンズ工、機工、旋盤工、麵粉焼、床屋、屋根工、賣子、料理番、看護婦、女床屋、美容婦等、
不 器 用	砲工、電機工、時計工、金細工工、錠前工、機工、鞍造製工、轆轤工、機械工、鑄型工、器具工、鍛冶工、製本工、硝子細工工、旋盤工、指物師、木彫工、床屋、裁縫師、畫工、大工、籠工、塗料技師、製帽工、左官等、

身體動作不敏	皮膚病	癩痢	近眼	色盲	難聽
鑄物工、敷物工、大工、建築、鍍力工、ペンキ工、造船工、賣子、鑄型工、左官、屋根工、帆匠、煙突掃除夫、料理屋給仕、女給、料理婦等、	電池工、鍍力工、旋盤工、化學工、上塗工、煙突掃除夫、釀造工、籠工、パン焼、門番、鞍製造工、彫刻師、床屋、毛皮工、帶工、寫真師、藥劑師、料理番、敷物工、菓子工、左官、印刷工、漆塗工、石磨、鍍金工等	屠殺工、屋根工、圖工、大工、料理屋給仕、機械工、帶工、硝子磨、電機組立工、鑄造工、鍍前工、皮揉工、植字工、印刷工、鞍製造工、指物工等	精密機械工、複寫々真工、交通従業員、刺繡工、時計工、	園丁、硝子器具工、染色工、畫工、海員、皮師、石版工、象眼細工師、レンズ工、印刷工、敷物工、寫真師、製本工、和洋服裁縫師、美術工藝女工、吳服洋反物、雜貨販賣員、交通従事員、醫師、藥劑師、	樂器工、鍛冶工、桶匠、床屋、左官、寫真師、鍍前工、時計工、屋根工印刷工、賣子、動力作業、女床屋、女給、保姆、家政婦、看護婦等、

惡臭	味覺障害	嗅覺障害	發音障害	レウマチス性體質	肺疾患
床屋、齒醫者、女床屋、料理屋給仕、女給等、	菓子工、食料品、嗜好品賣子、料理番、料理婦等、	香水製造業、料理番、藥劑師、化學師等、	教師、料理屋給仕、女床屋、女給、電話交換手、商人、看護婦等、	漁師、料理婦、園丁、皮揉工、製帽工、製陶工、大工、動力車手、パタ製造人、女給、洗濯番、桶職、染色工、石磨、左官、粉磨工、兵士、料理番、農夫、園丁、飲料魚賣子等、	農夫、石磨、皮揉工、敷物工、籠工、木彫師、鍍金工、屠殺夫、床屋、園丁、硝子磨、鍍工、鑄造工、製陶工、レンゾ工、鑄型工、屠殺夫、彫刻師、帶婦、電氣工、器具工、鍍前工、車匠、染色工、機工、毛皮工、靴工、植字工、左官、印刷工等、

心臓病	計算能力の障害	製圖能力の障害	理解力の障害	仕事にムラがあり勝ちなもの	忍耐、用心、確實性に乏しきもの
園丁、鑄工、鑄造工、鍛冶工、皮揉工、屠殺工、大工、動力車手、石磨鑄型工、桶職、金屬、印刷工、鍛冶工、粉挽工、料理番、飛行家等、	機械建造工、レンズ工、鉞力工、車匠、製本工、屋根工、商人、料理番女給、賣子、轆轤工、工具工、機械工、鑄造工、錠前工、冶金工、指物工、硝子工、料理屋給仕、電氣工等、	彫刻師、綳帶婦、電機工、美術製陶工、複寫工、舗工、ロクロ工、陶器型工、地圖調製者、亞鉛凸版工、左官、腐蝕版工、寫真師、意匠圖案師彫鏤師、機械工、鍛冶工、製本工、敷物工、木彫刻師、建具商等、	彫刻師、機械工、印刻工、寫真師、活動技師、植字工、器具工、錠前工、商人	硝子研磨工、冶金工、機械工、皮揉工、看護婦、ロクロ工、器具工、車匠、木彫刻師、大工等、	時計工、精密機械工、印刷工、看護婦、應用美術婦、保姆等、

潔癖性に乏しきもの	社交禮式の拙なる者 (交友性を欠くもの)	意志(決断力、沈着)乏しきもの
時計工、製本工、パン焼、屠殺夫、粉挽夫、床屋、製帽工、裁縫工、硝子工、料理屋給仕、看護婦、料理番、賣子、女床屋、洗濯婦、保姆、女賣子、料理婦、美容師、家政婦、女給等、	レンズ工、敷物工、商人、看護婦、寫真師、料理屋給仕、床屋、裁縫師美容師、女賣子、女給、保姆等、	電氣工、屋根師、海員、機械工、鍛冶工、女賣子、飛行士、動力車手、機關車手、種々の火夫、鑄造工、看護婦等、

第六章 個性調査

第一節 「個性要録」の創案

個性尊重論が繰返され、個性調査法の研究が大いに促進されたが、教育實際家に對して調査の爲の調査・記録の爲の調査に墮せしむるが如き徒らに繁雜なる手数を要して併かもその對應處置の的確ならざるもの、施行を強要してはいけない。實際當事者の常務として必然的に要求せらるべき範圍の事項を限り、その煩勞が一般に堪へ得らるべき程度の調査・整理・利用の方案を確立する必要がある。それで私は「個性要録」と題する座席・時間割・環境調査・個性觀察・志望調査・性能検査・學業成績・雜録等の諸項に就いての兒童個別の調査記録に便せしむべく學級主任の必携簿を創案して使用を試みる事にしたのである。

一、本簿考案の要點

1、表紙の両袖に兒童氏名を各三十名宛計六十名まで記入することが出来るやうにしてある。さうしてその調査諸項についての兒童個別の記録を爲すべく各頁に一人に一行を充て、ある。そこで開卷すれば調査記録の各項について學級全員のそれを對照通覽し得るやうになつてゐる。

之が本簿の一特長であつて即ち各兒童についての夫々の調査記録を了すれば同時にその各項についての一覽が行はれる。蓋し通覽對照して各兒童についての比較考察を入念に加へるといふ事は調査の修正を期する上に重要な條件である。

2、それから隨時必要に應じて調査せる事項及び認知せる事項等を摘録するのに便利なやうにポケット型として携用することにしてある。

二、調査記録の要項

1、環境調査

イ、家庭に關する事項

(一) 保護者の氏名、續柄、年齢、職業、勤先、生活程度及び社會的地位、教育程度、人柄、宗教等

(二) 母の名、年齢、職業、教育程度、人柄等

(三) 父母を失へるもの、その死亡（又は離別）後の經過年月

(四) 同居家族の續柄、員數、職業等

(五) 不在家族の續柄、員數、職業等

ロ、兒童の生年月日、住所等に關する事項

以上の調査によりて環境の整否を確かめその學習及び性行上に及ぼせる影響の如何并に志望關係を明かにして適切なる指導對案を講ずべきである。

2、個性觀察

イ、言語

多寡、大小、高低、流訥、文野等につきてその著しき特異點を明かにし、特に饒舌多辯、野卑、應答のハキ／＼せざる弊習等の矯正に努むべきである。

ロ、容貌

顔色、眼鼻耳口等の特徴美醜及び風格等につきその著しき特異點を明かにすること、その顔色悪しき者、表情の硬きもの、陰鬱なるものなどは心性、健康状態及び家庭境遇の反映と見るべく、又美醜に拘らず愛嬌の有無、風格の如何はその教養によつて或る程度まで左右し得らるることなるが故に共に之が指導上に相當の注意を拂ふべきである。

ハ、舉動

その鋭さ（敏捷、機敏、粗暴、遲緩）、輕快さ（輕快、活潑、端正、因循）、落つき（輕卒

輕躁、沈着、鈍重）等を觀察特記すること。而して社會生活適應の態度についての訓練に大いに意を用ふべきである。

ニ、性質

(一) 順應性（スナホサ）|| 温順なりや、執拗ならずや、勝氣ならずや、因循ならずや、規律正しきか

(二) 純真性（マヂメサ）|| 正直なりや、狡滑ならずや

(三) 確實性（タシカサ）|| 綿密なりや、きちやうめんなりや、正確なりや

(四) 快活性（ノンキサ）|| 呑氣なりや、快活なりや

(五) 向上性（ネツシンサ）|| 熱心なりや、勞を厭ひはせぬか

(六) 奉仕性（シンセツサ）|| 親切なりや

(七) 意志力 || 注意深いか、辛抱強いか、勇氣があるか、誘惑に對する抵抗力は？

(八) 其他 || 特殊の性癖等

氣質、性格、品性等について如上の觀點を定めて不斷に觀察を加へ特に認知せる儘をその都度本簿の相當欄に◎○△△等の如き記號を附し置きそれを對比綜合して各兒の性質に對す

る判知の妥當を期し適切なる對應指導を爲すべきである。

ホ、趣味嗜好

(一) 學科の好嫌

學年の始めに之を調査しその變化に留意すべきである。

(二) 運動遊戲、娛樂、衣食、仕事等に對する趣味嗜好を調査して之が善導に資し且つ選職指導の參考に資すべきである。

ヘ、特有技能

兒童自ら得意とせる特殊の技能を調査し長所特能の發揮に資すべきである。

ト、特徴類型

以上多方面的觀點より得たる印象を綜合して判別し得る個性タイプを左の分類によつて舉示し選職指導の參考に資すべきである。

- (一) 智的型 || 智能優秀にして専門的、事務的職業向
- (二) 經綸型 || 決斷、頓智、機敏、社交性等に富む事業家向
- (三) 技術型 || 手先器用、凝性、交際下手、技術家向

(四) 力量型 || 智能劣り、体力優る、勞働者向
チ、其他

3、志望調査

イ、希望職業(學校) || その第一、第二、第三までを記載することにしてあるが、變更に應じて訂正記入し得るやうになすべきである。

ロ、理由及び條件 || 給料、勤務場所、通勤、住込、進學等に對する本人及び保護者の意思を確かむべきである。

4、性能検査

イ、一般智能検査の結果を摘録すること

ロ、特殊性能検査の結果を摘録すること

5、學業成績

各學科の成績考査記録を爲すこと、學期別に平常考査の種目とその評點とを適宜に隨時記載し置きて最後に學期(學年)末の判定点を記入するやうにしてある。

6、雜錄

身體狀況（發育概評、營養、疾患等）學業成績操行勤怠等についての總括的記事、職業（學校）選擇、紹介、就職（入學）等に關する記事、其他特別注意事項、保護者申出事項等を適宜に記録することにしてある。

以上の諸項については必ず之を正しく調査し、しかも本簿を体系的記録に墮せしむることなく、真に利用せらるゝ生命ある教育的個別記録たらしむることを期してゐるのである。

第二節 學業成績考查

一、目的

1. 學校所定の教科課程に對して各兒童がどの程度まで確實に履修し得たかを明かにすること
 2. 各兒童の學習上の個人的特徴、學習勤勞の狀態及び進歩の度合等を詳かにすること
- 之によつて修業及び卒業を認定するのであるが、教育の本質的要求としては以て一つは兒童の自覺活動の促進に資し、一つは教師の指導對案の考究に資し、併せて保護者の參考に供すべきである。

二、方法、機會、處理

1. 平常考查

- A、各種學習作業の實際狀態についての觀察による。
 - 作業態度、要領及びその進歩の狀況を具さに考察する。
 - B、ノート及び成績品の點檢による。
 - 自學の狀態、理解の確否、技能の進歩等について考察を加へる。
 - C、問答法による。
- 豫習複習の檢察、問題解決の試練等を目的として適宜問答を行ひ以て特に注意、記憶、理解、想像、判斷、統覺、發表等の確否を考察する。

2、特別考査

A、學級別考査

イ、一齊考査
(筆答又は
實演による)

A、時間制限法

速度を主として學習の成績を考査するのである。

B、作業制限法

確度を主として學習の成績を考査するのである。

ロ、個別考査

A、膝下試問を行ふ。

B、個人的に實演せしめる

B、學年別考査並比較考査

教授能率を省察し、一つは以て兒童獎學の方便とし、一つは以て教授法の改善に資するのである。

3、平常考査の場合には各教科課程の要求に即せる批判標準を設定し置きて觀察、点檢、問答の都度隨時に各兒童に對する評語又は認定点を記録すること

- 4、特別考査の場合には特に各學級間に於ける各教科の考査問題の選定、採點の合理化、標準の統一等に意を用ひて嚴密なる採點を爲すこと
- 5、學級別特別考査は適當の教授段落毎に之を行ふを常例とし、學年別特別考査は毎學期に一回又は二回之を行ふこと
- 6、每學期末の各教科成績判定は平常考査と特別考査の兩者を適宜に參酌してその妥當を期すること
- 7、學年末成績の判定は每學期の成績を平均したるものによるを本體とし、特別の事情あるものにつきては適當に配意すること
- 8、考査上特に兒童の共通欠陥に注意し、その因由するところを究め指導の對案を研究してその救治に努むること
- 9、テスト成績との對照吟味を行ひてその考査判定の妥當を期すると共に適當に個別的措置を講ずること。
- 10、兒童に單に点数又は評符を示すに止めずその具体的事實を擧げて各兒童に機宜を得たる懇切なる忠言を與へ以て鼓舞獎勵に努むること。かくて所謂優等生をしてその能力を自負して學習

勤勞を輕んずるが如き事なからしめ、所謂劣等生をして自己の長處特能を自覺せしめず進歩意志を萎縮せしめ自暴自棄せしむるが如き事なきやうに之が善導に努むべきである。

11. 各自に考查答案を持歸らしめ、或は全級兒童の答案綴を回覽せしめ、或は保護者と直接懇談し、更に學期毎に通知簿によつて各教科目の成績判定を通告し以て家庭に於ける教育的注意の喚起に努むること

12. 及落判定は左の方針によること

イ. 病氣其他の事故によりて學習進展の遲滯を招ける者にて原級に留め置きて救済を加ふる方が本人將來の爲なりと認められる者は落第せしむるを本体とする。

ロ. 一部の教科の成績劣るも他に長所の認むべき点ありてその方面の學習進展可能の見込ある者は及第せしむるを本体とする。

第三節 性能検査

一. 一般智能検査

諸智的能力の素質的基礎たる一般智能の検査を行ふのである。之は學習指導上必要なるは勿論、職業的成功が特殊性能に依存するところが大であると共に一般智能の程度によつてそれが制限せられるものが少くないから、職業選擇指導上にも之を行ふの必要があるのである。

私は難波高等小學校に於て毎年四月全校兒童に久保博士改訂少年智能検査法A式テストを施行し、特に必要を認むる兒童にのみビネー、シモン法に改訂を加へて標準化された鈴木氏の個人テストを施行することにした。

○ 久保博士 實驗報告

このテストは團體的に施行するのであつて、(一)算術的推理、(二)文章完成法、(三)論理的選擇、(四)同異法、(五)置換法の五問題を以て組織されてゐる。さうして同博士は第一次實驗後に改訂を加へたテストを以て更に一年半の日子を費して八歳から二十五歳までの兒童生徒八千餘名に實施し、その結果を兒童研究所紀要卷七に報告してゐられるのである。その實施期及び被験者は尋常小學

校兒童(二月—三月)、中等學校生徒(七月—九月)、高等學校學生(七月と翌年三月)である。
左に對照上必要な統計を抄録しよう。

1、總得點の四分中數を年齢別に示せるもの

四分位數	年齢	
	男	女
高 $\frac{1}{4}$	Q_3	Q_1
中數	Q_2	
低 $\frac{1}{4}$	Q_1	Q_3
八歲	50.0	20.0
九歲	45.0	18.0
十歲	64.2	31.4
十一歲	58.0	29.0
十二歲	89.0	47.3
十三歲	80.0	45.0
十四歲	111.3	68.8
十五歲	103.0	59.5
十六歲	138.5	88.0
十七歲	132.0	81.0
十八歲	156.3	116.0
十九歲	152.2	112.8
二十歲	167.5	127.1
二十一歲	161.3	121.5
二十二歲	173.3	131.9
二十三歲	165.2	126.0

2、各問題別に四分中數を表示せるもの

第一問	四分位數		年齢
	Q_3	Q_1	
8.5	6.0	3.0	八歲 男
7.3	5.0	2.1	八歲 女
10.9	8.0	4.5	九歲 男
9.1	6.7	4.3	九歲 女
17.0	12.2	8.7	十歲 男
13.4	9.8	7.0	十歲 女
19.6	16.5	12.7	十一歲 男
17.8	14.6	10.8	十一歲 女
22.3	19.8	17.0	十二歲 男
20.9	17.6	13.8	十二歲 女
22.6	20.2	17.8	十三歲 男
21.0	18.5	16.0	十三歲 女
23.0	20.3	17.9	十四歲 男
21.2	18.9	16.3	十四歲 女
23.2	20.5	18.0	十五歲 男
21.7	19.0	16.4	十五歲 女

第五問			第四問			第三問			第二問		
Q_3	Q_2	Q_1	Q_3	Q_2	Q_1	Q_3	Q_2	Q_1	Q_3	Q_2	Q_1
14.5	11.0	8.0	6.0	4.0	2.0	8.7	5.5	2.0	11.5	8.0	5.1
15.0	11.4	8.5	5.2	3.7	2.3	6.6	4.4	2.3	11.0	7.0	4.5
17.5	13.8	11.0	6.0	6.5	3.5	10.7	8.0	4.4	15.0	10.7	7.2
18.3	15.1	11.8	8.0	5.5	3.1	10.0	6.5	3.5	13.6	9.6	6.4
21.2	18.0	14.7	11.4	8.1	4.8	19.7	13.8	8.5	20.4	15.7	10.6
22.7	18.9	15.6	11.0	8.4	5.4	16.5	12.3	8.1	18.2	13.7	9.5
26.0	22.2	18.5	19.5	13.5	8.5	23.3	19.3	14.2	23.5	19.4	14.9
25.5	22.0	18.0	17.0	12.0	6.8	21.0	16.5	10.4	22.3	16.8	12.4
29.1	25.2	21.2	28.5	21.5	14.0	29.6	24.1	18.2	29.2	23.9	19.2
28.6	25.2	21.0	26.1	19.3	11.2	27.7	32.1	16.8	28.6	22.8	18.8
32.5	28.7	25.0	33.6	29.4	24.0	34.4	28.4	23.1	33.2	30.1	26.7
32.0	28.5	24.8	32.9	28.2	24.0	33.4	37.9	22.2	32.8	29.1	24.8
34.2	30.3	26.5	36.4	32.5	27.5	38.6	32.8	27.8	35.3	32.7	28.1
34.5	30.7	27.0	35.5	30.8	26.6	35.4	29.4	23.8	33.8	30.8	27.6
34.8	30.8	27.0	39.0	34.5	29.1	41.0	35.0	28.6	36.3	33.7	29.5
35.0	31.0	28.0	36.5	32.6	28.0	36.0	30.6	25.0	34.0	31.1	27.9

3、總得點の中數を學年別に表示せるもの

中數 Q ₂	學年	
	性	年
尋常小學	男	三
	女	三
四全	男	四
	女	四
五全	男	五
	女	五
六全	男	六
	女	六
中等學校	男	一
	女	一
二全	男	二
	女	二
三全	男	三
	女	三
四全	男	四
	女	四
五全	男	五
	女	五

4、學年間の相違

總得點に於て各學年を通じて男女共に増加して居るがその學年間の差を算出すれば次の如くなる。

差	學年	
	性	年
四年	男	22.3
	女	19.2
五年	男	25.7
	女	19.7
六年	男	16.5
	女	20.6
一年	男	22.0
	女	27.4
二年	男	12.6
	女	13.3
三年	男	8.8
	女	6.4
四年	男	8.6
	女	6.3
五年	男	5.1
	女	7.1

之をみると小學校に於ける各學年間の相違が大で、漸次その差が中等學校に至つて減少して居る。殊に小學六年生の検査は三月に行ひ中等學校の一年生は第一學期の終りに検査しその差僅かに四ヶ月の相違なるに拘らず両者の懸隔が非常に大なるより見れば中等學校に入學するには如何に選良されるか、窺はれるやうである。

5、男女間の相違

第五問の置換法を除き他は凡て男子が優秀の成績を示してゐる。殊に第三問論理的選擇法并に第二問の文章完成法に於て男子の優秀度が著しい。

6、結語

イ、本テストの適用範圍

得點の増加大、最もよく適用し得ると思はるゝ年齢

男 八歳—十四歳 女 八歳—十三歳

得點の増加幾分あり、適用して差支なしと思はるゝ年齢

男 十五歳—二十一歳、 女 十四歳—二十歳

得點の増加が殆んど無く、或は却て降下を示して適用不可能と思はるゝ年齢

男 二十二歳—二十五歳、 女 二十一歳—二十三歳

ロ、テストの結果現在の中等學校の一年生が小學校六年生より得點がどれだけ優秀であるかの程度が明瞭になり、若し六年生の中にそれに近いだけの優秀なる得點を示す者があればその者は中等學校生徒としても差支ないと言ふことが出來よう。

練習 1 (練習時間一分)

できるだけ早く計算して答をお出しなさい。
 答は点線の上にお書きなさい。
 運算をするにはこの紙のあいた所をつかい出来ない問題はあとまはしにしてもよろしい。

職業指導実施要綱

こゝからおはじめなさい。

- 1 6 錢と 5 錢とで幾錢ですか。 答.....11.....
- 2 7 5 錢もらつて 4 5 錢つかつたら幾らのこるか。 答.....8.....
- 3 5 錢がいくつよれば 1 圓になりますか。 答.....2.....
- 4 縦 7 寸横 6 寸の紙は幾平方寸か。 答.....42 sq. in.?
- 5 1 時間に 4 里づつ行く馬車が 1 6 里の道に行くのに途中で 1 5 分づつ 2 度休んだ皆で幾時間かゝつたか。 答.....4.5 hr.
- 6 太陽が午前 7 時 2 2 分に出て午後 4 時 4 8 分に入ることすれば晝間は夜間より何時間短いか。 答.....

少年智能検査用紙

A式—第二

文學博士 久保真英改訂

職業指導実施要綱

○本検査法摘要

1 検査用紙の様式

姓名.....^{尋常 高等 中等}.....^{男女}.....

生年月日.....年.....月.....日..... 生活年齢.....年.....月.....

父.....母..... 父.....母.....

両親の出生地.....職業.....

生存.....死亡..... 兄.....姉.....弟.....妹.....

兄妹数.....

學科平均點.....席次.....

發育概評.....營養状態.....

學校名.....

現在市町名.....

試験年月日 昭和.....年.....月.....日 { 午前..... 午後.....

テスト	採 點 法	正	誤	得 點
1	正 數 × 2			30
2	正 數 × 2			
3	正 數			
4	正 數 - 誤 數			
5	正 數 × 0.3			
合 計				

練習 2 (練習時間三十秒)

つぎの一々の問題の^{ナンセン}点線の上にどんな文字を入れたら短かくて正しい文章になりますか。その入れる文字を^{ナンセン}点線の上にお書きなさい。

職業指導実施要綱

あま
 { さたうは……………い。
 な
 ……………は鳴く。

これからおはじめなさい。

- 1 りんごは……………い。
- 2 魚は水の……………に住んでゐる。
- 3 男の子……………女の子も謎……………がすきです。
- 4 火はあたゝかいが、氷は……………い。
- 5 子供がナイフをいたづら……………と手を……………ます。
- 6 何でもしやうと決心さへすれば……………ます。
- 7 時は金……………大切な場合が……………。
- 8 艱難……………人を……………にする。
- 9 歴史とは……………に起つた……………のである。
- 10 ……………は夕方に……………とかくれ、朝になると……………ます。

テスト 1 (検査時間五分)

ここからおはじめなさい。

- 1 一郎は13歳で花子は9歳になる、花子は一郎さいくつ歳か。ちがふか。 答 45
- 2 太郎は5円で机を買ひ、3円で椅子を買つた、みなで幾らかつたか。 答 84
- 3 5銭が幾つで10銭か。 答 2
- 4 太郎の祖母さんは86歳である、もう幾年生きたら100歳になるか。 答 14
- 5 西瓜1個を5人で食べるとすれば25人では幾つの西瓜がゐるか。 答 5
- 6 1日2圓50銭の給料を取る人は6日間でいくらされるか。 答 15
- 7 1間半は何尺か。 答 9
- 8 5銭で6個買へるお菓子は12個で幾銭になるか。 答 10
- 9 ベースボール用の運動服は1着2圓50銭で靴は一足2圓する、9人前の運動服と靴を買ふにはいくら金があるか。 答 24
- 10 いつも10時半に着く汽車が17分おくれて着いた 何時に着いたか。 答 11:37
- 11 3尺で10銭の紐を10 $\frac{1}{2}$ 尺買ふにはいくら金があるか。 答 35
- 12 或人が40日間働いてその半分の日数1一日6圓儲け 四分の一の日数は一日4圓50銭づゝ儲け、残りの日数は何も儲けなかつたますれば、この人は40日間にいくら儲けたか。 答 165
- 13 1000圓の4分は800圓の何分にあたるか。 答 0.05
- 14 1ヶ月60人に米15石入るますれば1日1人にいくら入る割合になるか。但し一ヶ月は30日です。 答 15
- 15 人力車は1分間に1町走り、荷車は1時間に2.0町行くますれば、人力車が10秒走る距離を荷車は何秒かゝるか。 答 900
- 16 体積300立方寸の桶の内の底の面積は90平方寸ある、その桶の深さは何程か。 答 ……
- 17 6に1 $\frac{1}{2}$ を幾回加へると15になるか。 答 ……
- 18 昨日正午に正しく合せた時計が、今日の午後6時に15秒進んで居たとすれば、この時計は半時間に幾秒つゝ進むか。 答 ……

職業指導実施要綱

練習 3 (練習時間三十秒)

各の問題の括弧の中から左の物と最も関係の深いものを二つだけ選んで其の下に線をお引きなさい。

職業指導實施要綱

例	人	〔からだ	杖	頭	靴	齒〕
	犬	〔毛布	くさり	くびは	足	鼻〕
	家	〔門	ベンキ	柱	女中	壁〕

こゝからおはじめなさい。

- 1 机 〔本 机かけ 皿 脚 板 〕
- 2 りんご 〔かご 赤色 種 皮 うまい 〕
- 3 下駄 〔足 足袋 はなな かゞと 板 〕
- 4 夕立 〔雲 いなびかり 雨 雷 風 〕
- 5 鋏 〔反物 切る 刃 鋼鐵 紙 〕
- 6 貧乏 〔不足 借家 怠る 困る 錢 〕
- 7 指 〔指輪 骨 痛み 爪 手袋 〕
- 8 不潔 〔老人 長命 病氣 食物 垢 〕

テスト 2 (検査時間四分)

こゝからおはじめなさい

- 1 お母さんはごはんを……………てゐます。
- 2 この犬は……………い。
- 3 雨……………雪とは空からふつてくる。
- 4 パナ、は……………い國にできます。
- 5 一耶さんはお使に私の……………に來ました。
- 6 飛行機は僅かの時間に遠くへ……………ことができます。
- 7 太郎さんは嵐を……………てゐます。
- 8 我々は日本の爲めに……………をつくします。
- 9 山は谷よりも……………い。
- 10 虹には七つの……………がある。
- 11 二十五錢は一圓の……………の一です。
- 12 友だちに親切を……………人には必ず其の報が……………。
- 13 ………………には機關車と列車とが……………。
- 14 風邪に……………た時には決して人込みの……………に行つてはならぬ。
- 15 教室や圖書館の……………は……………にすべきである。
- 16 動物は呼吸作用によつて空氣中の……………を吸ひ……………を吐出す。
- 17 お客さんが其の家の子供に……………の名を……………ました。
- 18 或る一部の人が貸錢の……………を……………した。
- 19 大きな……………が濟んでから多くの……………が經過した。
- 20 貧乏神でも賢くて……………の強固な者を……………こそはできない。
- 21 動力は電氣やガソリンや……………やその他種々のものから……………る。
- 22 ………………が星の世界に……………かを實際に知つて居る者はない。
- 23 ………………の氣象……………人は多くの事業に……………する。
- 24 如何なる……………に際しても自若としてその……………を失はない者は極めて……………。
- 25 エネルギーには……………エネルギー……………エネルギー……………エネルギー等種々ある。
- 26 吾人は各その……………に應じて公益を……………世務を……………べきである。
- 27 人文は日々に……………て萬般の……………顧る其の……………を改めた。
- 28 國家の……………を圖るには國民……………を一にして之に……………なければならぬ。

職業指導實施要綱

練習 4 (練習時間三十秒)

各の問題の二つの語が粗々同じ意味に用ゐられることがあれば点線の上には=を書き異つた意味にばかり用ゐられるなれば其の間に×をお書きなさい。

職業指導實施要綱

×

例 { さむい……………あつい
しづか……………おだやか
善い……………悪い

こゝからおはじめなさい。

- 1 ハイ……………イイエ
- 2 兄……………姉
- 3 ひかる……………かがやく
- 4 さかえる……………しげる
- 5 しめる……………かわく
- 6 あがる……………のぼる
- 7 長い……………短い
- 8 死ぬ……………生れる
- 9 さからふ……………もさる
- 10 粗……………滑
- 11 岡……………谷
- 12 正直……………信實
- 13 無用……………有用
- 14 中央……………場末
- 15 慣習……………因襲
- 19 うるさい……………わづらはしい
- 17 液體……………固體
- 18 横着……………狡猾
- 19 潮る……………沂る
- 20 教唆……………煽動

テスト 3 (検査時間三分)

こゝからおはじめなさい

- | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-----|-----|----|------|---|
| 1 | ねずみ | 〔 ねこ | 目 | 穴 | わな | 皮 | 〕 |
| 2 | 鐵 | 〔 堅い | 光る | 赤い | 重い | 沈む | 〕 |
| 3 | 顔 | 〔 口 | ひげ | めがね | 齒 | あひ | 〕 |
| 4 | 虎 | 〔 骨 | なり | 竹やぶ | 毛 | くさり | 〕 |
| 5 | 川 | 〔 岸 | 魚 | 舟 | 岩 | 水 | 〕 |
| 6 | 物置 | 〔 車 | 馬 | 屋根 | 炭棒 | 柱 | 〕 |
| 7 | 森林 | 〔 花 | 獸 | 木 | 鳥 | 土 | 〕 |
| 8 | 紙幣 | 〔 數 | 紙 | ごみ | 數字 | 武内宿禰 | 〕 |
| 9 | 算笥 | 〔 鍵 | 引出 | 鏡 | 着物 | 板 | 〕 |
| 10 | 町 | 〔 馬 | 住宅 | 並樹 | 道路 | 電車 | 〕 |
| 11 | 鋤 | 〔 刃 | 掘る | 畑 | 柄 | さび | 〕 |
| 12 | 火 | 〔 灰 | 危険 | 焔 | 熱 | 炭 | 〕 |
| 13 | 讀方 | 〔 學校 | 印刷 | 繪畫 | 文字 | 言語 | 〕 |
| 14 | 立方體 | 〔 高さ | 製圖 | 容積 | 石炭 | 積木 | 〕 |
| 15 | 風邪 | 〔 下痢 | 危険 | 咳 | 醫師 | 熱 | 〕 |
| 16 | 指輪 | 〔 直徑 | 金剛石 | 圓い | 指 | 印章 | 〕 |
| 17 | 除法 | 〔 算術 | 被除數 | 筆算 | 鉛筆 | 除數 | 〕 |
| 18 | 行列 | 〔 自動車 | 旗 | 馬車 | 人 | 行進 | 〕 |
| 19 | 群集 | 〔 集合 | 危険 | 塵埃 | 同盟 | 數 | 〕 |
| 20 | 犯罪 | 〔 死刑 | 違法 | 監獄 | 巡查 | 不正 | 〕 |
| 21 | チフテリア | 〔 全快 | 發疹 | 熱 | 黴菌 | 藥 | 〕 |
| 22 | ガソリン | 〔 自動車 | 鑼 | 液體 | 爆發 | 匂 | 〕 |
| 23 | 物語 | 〔 挿繪 | 王 | 想像 | 敵討 | 創作 | 〕 |
| 24 | 王 | 〔 王冠 | 王國 | 王子 | 笏 | 家來 | 〕 |
| 25 | 國民 | 〔 市 | 國 | 男 | 國籍 | 投票 | 〕 |
| 26 | 紙 | 〔 端 | 手紙 | 印刷 | 面 | 白い | 〕 |
| 27 | 水先案内 | 〔 帽子 | 入港 | 免狀 | 熟練 | 外套 | 〕 |
| 28 | 結晶 | 〔 液體 | 同質 | 水晶 | 透明 | 平面 | 〕 |
| 29 | 公益 | 〔 慈善 | 社會 | 功名 | 有益 | 寄附 | 〕 |
| 30 | 進化 | 〔 體形 | 動物 | 變異 | 構造 | 遺傳 | 〕 |

職業指導實施要綱

練習 5 (練習時間三十秒)

第一圖の中には一々の符號シムボルにそれぞれ数字があてはめてある。それを見てその下の1より2までの圖の上にある符號を数字に直して下にお書きなさい。ぬかさないやうにしてできるだけ早くなさい。

第一圖

△	□	∞	+	Σ	ρ	⊕	⊖	○
1	2	3	4	5	6	7	8	9

こゝからおはじめなさい。

1	∞	△	+	ρ	□	⊕	+	△	Σ	○	□	∞	ρ	⊖	+	○	ρ	∞	⊖	□
	3	/	4																	
2	⊖	△	⊖	Σ	⊖	□	○	∞	ρ	+	○	∞	△	□	Σ	⊖	Σ	△	+	⊖

テスト 4 (検査時間二分)

こゝからおはじめなさい

- 1 上……………下
- 2 新しい……………古い
- 3 高い……………ひくい
- 4 のこる……………あまる
- 5 うやまふ……………たふとむ
- 6 晴……………雨
- 7 遠い……………近い
- 8 沈む……………浮く
- 9 同じ……………ことなる
- 10 鋭い……………鈍い
- 11 昇る……………降る
- 12 男性的……………女性的
- 13 貰ふ……………與ふ
- 14 正……………誤
- 15 一時……………永久
- 16 與ふ……………施す
- 17 進呈……………献上
- 18 堅い……………固い
- 19 光景……………状況
- 20 哀れむ……………憐れむ
- 21 生産……………誕生
- 22 突然……………不意
- 23 尋ねる……………訊れる
- 24 臆病……………大膽
- 25 開放……………閉鎖
- 26 高慢……………自負
- 27 無比……………唯一
- 28 怨む……………恨む
- 29 明瞭……………曖昧
- 30 繼續……………中止
- 31 いらへ……………こたへ
- 32 すさぶ……………あれる
- 33 たそがれ……………ゆふぐれ
- 34 ひるげ……………ひるむ
- 35 出家……………出奔
- 36 點燈……………消燈
- 37 かひなし……………せんなし
- 38 否認……………承認
- 39 非難……………賞揚
- 40 ためらふ……………たゆたふ
- 41 やり戸……………ひき戸
- 42 露見……………發覺
- 43 極端……………中庸
- 44 大度……………法度
- 45 すぎはひ……………なりはひ
- 46 傳説……………口碑
- 47 雄辯……………花瓣
- 48 慨然……………徒然
- 49 錯綜……………紛糾
- 50 恒常……………不變
- 51 ゆくて……………ゆんで
- 52 方寸……………方正
- 53 登極……………即位
- 54 丹誠……………丹青
- 55 發端……………濫觴
- 56 聾者……………聾者
- 57 辟易……………容易
- 58 趁起……………逡巡
- 59 麤至……………蠟集
- 60 勝負……………輸贏

◎つぎの行へうつつておやりなさい

漢字でもよいが極めて短い言葉でなければならぬことを強調しておく。練習は最初「人、からだ、杖、頭、齒」と読み、人に無くてならないもの、即ち最も関係の深いもの二つだけを括弧の中の五つの言葉の中からさがし出して見ると「からだ」と「頭」で杖や齒は無くても人となり得るから「からだ」と「頭」の二つの言葉の下に線を引くやうにすると説明する。次の例に就いては兒童に答へさしてみるとよい。練習は先づ例に就いて説明し「あつい……さむい」といふやうに左と右とが異つた意味の言葉である場合にはその間の点線の處に×の記號をつけ「しづか……おだやか」のやうにはど同じ意味に用ひられる場合にはその間の点線の處に∥を附するやうに説明する。練習は第一圖を見ると一々の符號に數字を1から9まで當てはめてあるが、それを手引にして次の問題の符號を數字に置きかへるやうにせよと命ずる。然して最初の三つを置換へてある例について説明し、その次ぎから順々に手引を見ながら數字に置換へて書くやうにする、此際注意すべきは△は1だから△のみを先に置換へ□は2だから□だけを置換へて行くといふやうな事をせず、左の方から順々に一つ宛置換へて、間隙をおかないやうにする事である。

3. 採点の方法

イ. 一般的規則

- (一) テスト3を除き 凡て半成の答には正にも誤にも計算しないこと
- (二) 正答の記號には○を用ひ、誤答のそれには×を用ひ省略の記號には一を用ふることに
- (三) 前記の符號は各問題に相當する右端の空所に記入すること
- (四) 正數より誤數を減する場合の採点は負數を用ひず、零點を以て極限とすること

ロ. 各問の採點法

テスト第一

- (一) 答の文字の近くにある數字を以て答と見做すこと
- (二) 二つ又は二つ以上の答を書いたものは誤答とすること
- (三) 答の欄を一つだけ誤つて順次にその通りに答を書いて居る場合の正答は合格とすること
- (四) 圓とか錢とかの命名を怠つても合格とすること
- (五) 問題の6912の答に於て圓の字を附せざるものは、圓の位を示す点を怠つても差支へないこととする
- (六) 答の數字は日本數字でもアラビヤ數字でも差支へない

(七) 正答せる問題数の二倍を以て評点とする

テスト第二

- (一) 挿入すべき語は合理的と思はるゝものは凡て合格とする
- (二) 文法上正しからざるものは不合格とする。字劃が違つてゐてもその意味の何たるかと判讀され且つその意味が正しければ合格とする。方言は許容する
- (三) 挿入の語は出来るだけ短いものでなければならぬ。意味が正しくても餘り語が長いものは不合格とする。即ち挿入語を仮名になほして六字を最長限とする
- (四) 挿入すべき場所二ヶ所又は三ヶ所の場合にそれ等全部が正答でなければその問題を正答としない
- (五) 正答せる問題数の二倍を以て評点とする
- (六) 正答例
 - (1) たい、よそつ、たべ、いたゞいて、食つて、たべさせて、
 - (2) 強、こわ、大き、小さ、白、黒、弱、かしこ、きら、かわい、きたな、にく、と、
 - (3) あつ、あたゝか、ぬく、
 - ところ、うち、家、町、
 - とぶ、行く、飛んで行く、
 - つくつ、あげ、とばし、こさえ、高くあげ、買つ、
 - 忠義、忠、全力、まごゝろ、力、
 - 高、 (10) 色、 (11) 四分、
 - つくす、いたす、……………くる、ある、
 - 汽車……………ある、 (14) かゝつ、おかされ……………中、所
 - 中で、内で……………静、静肅、大切
 - 酸素、炭酸ガス、
 - 自分、其の子、おとうさん……………言ひ、聞き、たづね、親の名、その、犬の、問
 - ひ、
 - (18) 値上、値下、割増し……………要求、斷行、反對、寄附、
 - (19) 事件……………時間、 (20) 意志……………見舞ふ、貧乏にする、

- (4) (5) (6) (7) (8) (9) (12) (13) (15) (16) (17) (18) (19)

- (21) 水力、石炭……………これ、起る
- (22) 誰も……………何がある、
- (23) 進取……………に富む……………成功、
- (24) 事變、災難……………節、態度、落着……………稀である、偉い、
- (25) 熱……………光……………電氣、
- (26) 分……………廣め……………開く、
- (27) 成り……………事……………面目、
- (28) 隆盛、繁榮……………其の心、が心……………當ら

テスト第三

- (一) 一語又は二語の下に線を引いたものには点を與へるが、三つ四つ又は五つの語に線を引いたものは零点とする。
- (二) かやうにして各問題に就て正しく線を引いたものに一点を與へる。故に各問題に就て二語とも正しければ二点、一語だけ正しければ一点として計算することになる。

テスト第四

- (一) 全部を通じて×か又は○の符號を附しあれば之は全部零点とする。
- (二) 正答數から誤答數を引いて評点とする。

テスト第五

正しく置換へた各數字に對して0.3点を與へる。

(兒童研究所紀要第五—七卷參照)

◎難波高等小學校に於ける實施成績

1、總得点の四分中數を學年別に表示せるもの

學年	第一學年						第二學年						性	昭 和 四 年 四 月 施 行	昭 和 五 年 四 月 施 行	平 均		
	Q ₃		Q ₂		Q ₁		Q ₃		Q ₂		Q ₁							
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	人 員	四 分 中 數	人 員	四 分 中 數	總 人 員	四 分 中 數
	"	"	"	"	九三	一八八	"	"	"	"	一三一	二九六	二九六	六九、四	二四七	七三、四	五四三	七一、四
	一二四、三	一二八、〇	一〇六、五	一〇九、七	八七、〇	九一、六	九九、五	一〇三、八	八〇、六	八七、七	六四、六	八四	八四	七五、四	二二五	七〇、〇	八四、八	八七、八
	"	"	"	"	一一四	二三四	"	"	"	"	八四	八四	八四	七五、四	二二五	七〇、〇	八四、八	八七、八
	一一九、七	一二三、一	一〇四、一	一〇八、四	八二、七	八三、九	一〇七、五	一〇三、三	八九、〇	八七、九	七五、四	二二五	二二五	七〇、〇	八四、八	八七、八	八七、八	八七、八
	"	"	"	"	二〇七	四二二	"	"	"	"	二二五	二二五	二二五	七〇、〇	八四、八	八七、八	八四、八	八七、八
	一二二、〇	一二五、五	一〇五、四	一〇九、〇	八四、九	八七、八	一〇三、五	一〇三、五	八四、八	八七、八	七〇、〇	八四、八	八四、八	七〇、〇	八四、八	八七、八	八四、八	八七、八

2、久保博士の實驗報告との相違

第一學年
 男 Q₂ || 四〇、一
 女 Q₂ || 四〇、一
 第二學年
 男 Q₂ || 三一、五
 女 Q₂ || 三一、八

この相違は現在の中學校の生徒と高等小學校の生徒との智能度の差を示すものとも見られるのであるが然しテスト實施期が異つてゐる。久保博士の實驗は七月及び九月に施行され、私の四月に行つて居るのであるから、こゝに示せる數字を以て両者の差を表はせるものと速断してはいけないが兎に角に相當の懸隔があるといふことは窺はれるのである。

3、學年間の相違

1、昭和四年度施行第一、二學年の相違

男
 Q₁ || 二二、二
 Q₂ || 二二、〇
 Q₃ || 二四、一

女
 Q₁ || 二二、四
 Q₂ || 二五、九
 Q₃ || 二四、八

ロ、昭和五年度施行第一、二學年の相違

男

Q ₁		一〇、五
Q ₂		二〇、四
Q ₃		一九、八

女

Q ₁		七、三
Q ₂		一五、三
Q ₃		一二、二

ハ、同一児童につきて一年後に行へる再検査による相違

男

Q ₁		一四、五
Q ₂		二〇、七
Q ₃		一九、三

女

Q ₁		一八、一
Q ₂		二三、七
Q ₃		二〇、二

4. 總得點表

第一學年			昭和四年度			昭和五年度		
			中數	最高	最低	中數	最高	最低
			女	男	女	男	女	男
			八〇、六	一五二、七	八、三	一三〇、七	一六四、三	一四七、〇
			八七、七	一三〇、七	二六、三	一四七、〇	一七、九	六、三

第二學年

昭和四年度			昭和五年度					
			中數	最高	最低	中數	最高	最低
			女	男	女	男	女	男
			一〇九、七	一六四、〇	二六、六	一六〇、四	一九、九	二〇、五
			一〇六、五	一六九、一	二八、〇	一六一、七	一九、九	二〇、五

5. 高二・修、國、算、地、歴、理の六科目の得点とテスト總得点との相関係數

昭和三年度

男	(一六七名)		〇、七七九三
女	(八七名)		〇、七四四九

昭和四年度

男	(一八八名)		〇、六九三八
女	(九四名)		〇、八六四一

6. 高二・全科目の得点とテスト總得点との相関係數

昭和三年度

男	(二六七名)		〇、七四〇五
女	(八七名)		〇、七四五三

昭和四年度

男	(二八八名)		〇、六七七一
女	(九四名)		〇、八六五五

7. 鈴木氏個人テストとの相関係數

昭和四年六月施行高一女(四五名) || 〇、六四七八

各テスト別標準値表

年齢 性別 検査人員	16		15		14	
	男	女	男	女	男	女
	1,011	604	1,260	910	645	484
テスト 1	16.3	14.6	14.6	15.5	15.6	13.9
" 2	22.1	21.5	21.7	21.6	20.7	18.9
" 3	28.4	26.0	27.4	25.9	24.6	22.7
" 4	22.6	20.9	21.1	20.7	18.4	16.7
" 5	26.4	25.4	27.5	25.6	24.6	22.8
總計	115.8	108.4	112.5	109.9	104.0	95.1

一般智能年齢別標準値並品等表

年齢 性別 品等	16		15		14		13		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
	115.8	108.4	112.5	109.9	104.0	95.1	82.5	78.1	
俊才	俊才	202.7 ^上	189.7 ^上	196.9 ^上	192.3 ^上	182.0 ^上	166.4 ^上	144.4 ^上	138.4 ^上
優良	最優	173.7"	162.6"	168.8"	164.9"	156.0"	142.7"	123.8"	117.2"
	優	144.8"	135.5"	140.6"	137.4"	130.0"	118.9"	103.1"	97.6"
正常	正常	86.9"	81.3"	84.4"	82.4"	78.0"	71.3"	61.9"	58.6"
低能	劣	57.9"	54.2"	56.3"	55.0"	52.0"	47.6"	41.3"	39.1"
	最劣	29.0"	27.1"	28.1"	27.5"	26.0"	23.8"	20.6"	19.5"
無能	無能	28.9 ^下	27.0 ^下	28.0 ^下	27.4 ^下	25.9 ^下	23.7 ^下	20.5 ^下	19.4 ^下

備考 智能評價の標準ハ橋崎博士ノツレニヨル

○大阪市立中央職業紹介所少年部研究、本テストによる一般
智能年齢別標準値并に品等表（昭和五年七月發表）

○學科成績とテスト成績との對照表作成

之を學級別に作成して左の如き兒童に對する個別指導に資し、且つ學業成績判定の當否を反省すべきである。

1. 熱心なる努力の永續によりて智能位低き割合に學科成績の良好なるもの
2. 怠惰性の爲に智能位に比し成績良好ならざるもの
3. 家庭の事情上、智能位に比して成績の好果を收め得ざるもの

なほテスト成績に疑義を存するものについては再検査又は個人テストを施行してその正否を確かむべきである。

左に之が對照表の一例を掲ぐ。

兒童 指數	知能 團體テスト		尋六學科		高一、第一學期學科		備 考
	總得點	順位	得點	順位	得點	順位	
1	一〇四	一三四、七	八四	一七	一一六	五	家庭本人共に熱心不足なり、然し學習上指導の効能擧りつゝあり
2	九五	一三〇、一	一〇九	一	一二三	一	知能指數低きは検査の時疲勞甚だしかりし爲ならん再検査を要す
3	九四	一二七、七	九〇	一一	一〇八一三、五	五	團體テスト再検査を要す
4	九五	一二三、八	八七	一四	一一三	九	學科成績は尋六十四位より向上し知能に漸次接近
5	八九	一一九、五	九二	八、五	一一六	五	個人テストの再検査を要す
6	一〇三	一一五、九	一〇二	二	一一六	五	
7	九八	一〇九、一	九四	七	一〇九	一一	
8	九一	一〇八、一	七九	二一	八六	四一	學科成績の甚だしき不振は家庭放任且本人の性放縱怠惰不熱心なる爲
9	九九	一〇七、七	七四	二八	一〇六	一七	從來學習訓練不十分、學業成績知能に比し劣れるも餘程向上
10	八九	一〇七、四	七〇	三二、五	九二	三三、五	學習態度ならず爲に知能に比して學業の成績悪し
11	九八	一〇三、九	九五	六	一一二	一〇、五	
12	一〇八	一〇三、二	一〇一	三	一一九	二	努力勤勉の結果成績向上
13	九三	一〇一、九	八六	一五	一一五	七	學科稍々向上すれども知能に比して尙懸隔あり
14	九三	二〇〇、八	六七	三七、五	九二	三三、五	

テスト成績と學科成績との對照表

(高一女 四十六名)

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
九四	九三	八二	九〇	八八	八四	九〇	九六	九六	八一	九一	九一	九〇	欠	九九	九〇
八二、三	八二、四	八二、七	八五、〇	八六、八	八六、九	八九、八	九〇、三	九〇、七	九二、七	九三、二	九五、〇	九五、一	九六、二	九七、八	九〇、三
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二二	二〇	一九	一八	一七	一六	一五
七八二二、五	六九	六五	八一	七五	九八	七三	九二	七四	九六	七二	八八二二、五	六七三七、五	七八二二、五	九一	八〇
三五	三五	三九	一九	二六	四	三〇	八、五	二八	五	三一	一〇八二二、五	九一三五、五	一〇二	一〇	二〇
九七二六、五	九	八七	一〇七一五、五	八四	一〇七一五、五	一〇一	一一四	一〇一	八七	一〇二	一〇八二二、五	九一三五、五	一〇一	一一二二〇、五	一一七
三九	三一	三九	四二	四二	五	二〇	八	二〇	三九	一八	五	五	二〇	五	三
個人テスト再検査を要す	近視なるに眼鏡を使用せずために學習に不便多し		身体虚弱なる爲成績低下				學習態度緊張の爲成績大に向上	團體テストの際頭痛あり、再検査を要す	尋六に比し成績の急激なる低下は病氣で一學期の大半欠席したる爲成績漸く向上知能に近似す						過度と迄思はれる努力勉強の結果成績よろし、今後身体方面にも留意を要す

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
七二	八九	七七	八〇	八〇	九二	八六	八七	八七	八八	八六	八七	九二	九〇	九九	八五
五四、六	五五、七	五八、五	五九、九	六一、二	六一、六	六二、〇	六三、七	六四、一	六五、二	六九、〇	七三、三	七五、三	七七、四	七九、九	八〇、七
四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一
六九	六三四一、五	六〇	五六	五八	七四	六九	五七	六三四一、五	七六	八八一二、五	八四	六四	七〇三二、五	七七	八四
三五	四五	四三	四六	四四	二八	三五	四五	四五	二五	一七	四〇	四〇	三二、五	一九	一七
八七	九〇	八三四三、五	七五	九三	九八二二、五	九三	八一	八三四三、五	九四二八、五	九八二二、五	九四二八、五	九七二六、五	九一三五、五	九八二二、五	九八二二、五
三九	三七	四六	四六	三一	五	三一	四五	五	五	五	五	五	五	五	五
					尋常科に比し成績大に向上	努力熱心の結果成績良好なる		尋常科に比し成績大に向上	強度なる近視が成績に影響を與へる様に思はれる	學習不熱心なる爲成績の劣らす					個人テスト再検査を要す

二 特殊性能検査

學習指導上特に各自の長所特能の發揮に資すべく、又職業に必要な特殊性能に目標を置き各人の箇々の能力的特徴に着眼し將來益々その特長を發揮することが出來て、しかもその短所が障礙とならないやうな職業を選ばしむべく指導する上に、乃至は不適職拒否の爲に特殊性能の検査を必要とするのである。

それで私は大阪市立中央職業紹介所との連絡を圖つて、正常聯想法（正常聯想速度の検査）、反對聯想法（反對聯想速度の検査）、加算法（數的聯想速度の検査）、目算法（目算的機能の遅速確否の検査）、論理的記憶法、機械的記憶法、單語記憶法（單語の機械的記憶力の検査）、形象記憶法（形象の機械的記憶力の検査）、補字法（判斷力の検査）、圖形構成法（圖形的判斷力の検査）、比例法（數的推理力の検査）、推理知覺法、照合法（記憶力の検査）、抹消法（同上）、置換法（精神的學習能力の検査）、長短分類法（空感覺の検査）、制約動作法（指頭の制約動作機能の検査）、調節動作法（指頭の調節動作機能の検査）、等の筆記による團體テストの實施を試み、更に東京山越工作所發賣の性能検査器で器械検査を施行することにした。前者については同紹介所少年部主任福井宗二郎氏が編著せられた「少年性能検査法」を参照せられたい。後者については左にその概要を記す。

いんご。

1. 検査種目とその適用

イ. 運動機能の検査

- (一) 反應力 刺戟に對し意志的運動の反應速度を検査する。
一般に危険なる又は複雑なる機械類を取扱ふ職工、牛馬其他の機敏又は強暴なる動物を取扱ふ御者、騎士、動物園の飼養者、繁忙なる商店員、交通巡查、運轉手、車掌、信號人、外科醫、産婦人科醫、耳鼻咽喉科醫、産婆、看護婦、保姆等の適性を檢案するに必要な検査である。
- (二) 作業速度 手指運動の敏緩、注意持續の良否等の綜合能力を検査するのである。
一般に手指運動の敏捷巧緻を要する技術方面の適性テストに用ひ、又一般能力を檢診する爲にも汎く用ひられる。
- (三) 技能學習力 精神と技巧の綜合的能力と記憶的習慣に添はざる運動を實驗的に學習せしめ其の能力を判定する検査である。星形を菱形に改めて目下實驗中である。
- (四) 運動速度 手腕の運動速度と持久力を検査するのである。

(五) 握力||力量を検査するのである。

ロ、感覺知覺の検査

(一) 聴力||聴覺の鋭鈍を検査するのである。

(二) 視觸覺辨別||目で視つゝ觸覺によりて辨別する能力を検査する。感覺力と運動能力と精神機能との若干能力の複合テストとして簡便なものである。細工師、職工等に必要なる適性の検査に、又商店の帳場や切符賣場や乗物内の車掌などの如く一方に小錢を取扱ひつゝ一方には客と應對し乃至他の用事をも同時にせねばならぬやうな職業には是非之れを施行の要がある。

(三) 空間辨別||精密目測の確否を検査するのである。

指物師、大工、圖案家、設計者、畫家、彫刻師、裁縫師其他工藝品製造の職工の適性を検査するに必要なる検査である。

(四) 光度辨別||視覺に感ずる光度の辨別力を検査するのである。

觸覺||觸覺の鋭鈍を検査するのである。

(六) 色神||色盲及び色弱の質を検査するのである。

(七) 視力||視覺の鋭鈍を検査するのである。

ハ、精神機能の検査

(一) 記憶力||機械的記憶の検査である

(二) 選擇力||形態の觀察と比較辨別をする能力を検査するのである。

(三) 注意力||注意の深さと廣さがどの程度まであるかの検査である。

(四) 構成力||觀察と想像と工夫との綜合した能力を検査するのである。

2、性能検査點數表

山越工作所にて發表せるものを左に掲ぐ

高等小學二年生性能檢查點數表

性 別	男			女				
	Q ₁	Q ₂	Q ₃	Q ₁	Q ₂	Q ₃		
聽 力	右	9.°656	6.°964	5.°263	10.°406	7.°325	5.°513	
	左	10.°188	7.°100	5.°141	11.°417	7.°417	5.°333	
記 憶 力	回	13.097	12.094	9.111	13.058	12.425	8.270	
	耗	0.294	0.232	0.153	0.271	0.211	0.122	
空 間 辨 別	回	9.191	8.240	7.038	8.462	6.950	6.393	
反 應 時 間	回	9.191	8.240	7.038	8.462	6.950	6.393	
構 成 能 力	點	4'28."375	3'15."000	2'29."750	5'30."000	4'01."500	3'13."000	
注 意 力	深サ)	點	58.036	75.613	96.938	54.917	72.778	89.973
	(廣サ)	點	32.308	51.304	72.619	31.051	48.378	55.405
光 度 辨 別	點	12.°688	10.°006	7.°813	16.°563	12.°563	9.°084	
視 觸 覺 辨 別	點	2'28."463	2'14."333	1'59."750	2'37."580	2'20."750	2'9."890	
學 習 力	點	4'04."750	2'47."630	1'50."250	6'33."000	3'54."500	2'42."000	
作 業 速 度	(質)	點	53.800	61.533	70.467	49.167	58.667	67.876
	(二分)	本	57.704	60.874	64.703	60.666	63.832	58.046
選 擇 力	點	1'25."179	1'15."350	1'04."321	1'31."500	1'15."717	1'05."383	
(正配)	點	94.766	97.962	99.988	94.851	97.744	99.923	
運 動 速 度	Kg	289.625	313.500	331.400	277.875	300.000	322.250	
握 力	右	Kg	18.411	21.273	24.177	14.708	17.300	19.969
	左	Kg	15.667	18.000	21.031	12.886	14.575	16.368

(山越工作所發行性能檢查法參照)

職業指導實施要綱

一三一

高等小學一年生性能檢查點數表

性 別	男			女				
	Q ₁	Q ₂	Q ₃	Q ₁	Q ₂	Q ₃		
聽 力	右	13.°469	9.°750	6.°750	9.°375	7.°194	5.°188	
	左	13.°083	8.°589	6.°600	10.°038	7.°481	5.°687	
記 憶 力	回	13.854	12.776	11.769	13.213	12.067	8.958	
	耗	0.289	0.202	0.139	0.255	0.171	0.138	
空 間 辨 別	回	8.560	7.920	7.090	10.833	8.900	7.407	
反 應 時 間	回	8.560	7.920	7.090	10.833	8.900	7.407	
構 成 能 力	點	4'59."750	3'34."000	2'39."083	5'49."833	4'30."500	3'35."000	
注 意 力	(深サ)	點	38.400	74.575	95.325	26.525	66.950	91.327
	(廣サ)	點	17.920	37.720	53.920	19.410	38.000	57.520
光 度 辨 別	點	13.°438	10.°708	8.°656	23.°625	19.°250	16.°500	
視 觸 覺 辨 別	點	2'33."962	2'20."250	2'11."275	2'49."643	2'29."900	2'14."917	
學 習 力	點	5'30."000	3'58."500	2'49."250	7'00."000	7'50."000	2'30."333	
作 業 速 度	(質)	點	53.750	61.440	67.916	56.438	66.286	75.376
	(二分)	本	56.432	59.734	64.166	61.142	64.222	68.332
選 擇 力	點	37."250	1'24."800	1'11."600	1'26."325	1'13."377	1'02."625	
(正配)	點	93.538	97.276	99.788	90.500	93.304	92.224	
運 動 速 度	Kg	289.250	313.333	333.583	286.667	307.832	323.500	
握 力	右	Kg	16.538	18.971	20.°09	15.813	18.300	19.591
	左	Kg	14.896	17.393	19.771	13.208	15.206	17.654

職業指導實施要綱

一三〇

第七章 勤勞陶冶

第一節 勤勞陶冶の意義

さて吾人々類は現在には到底満足し能はぬものであつて、その理想は次第に向上する。その欲望は際涯なく増長する。而してその理想を實現すべくその欲望を満足せしむべく常に完全充足を希求しつゝ、代々相繼いで向上的活動を續けてゐるのである。之を仔細に見れば或は眞の向上の精神を欠いで醉生夢死の生活に墮する者があり、或は私利私慾をほしきままにして同胞の安寧幸福を破壊する者があり、或は時に戦争の慘事をみることがあり、又時に天災地變の禍などがあつて人生を不安混濁ならしめるやうな事もあるが、之を大觀正視すれば實に人生は人類が互によりよく生きんとする絶えざる共同的奮闘の過程に外ならぬものである。即ち過去幾千年幾萬年の長き歲月にわたつて多くの人々が粒々辛苦したその勤勞が今日の文化を産み、我等はその文化の恵みに浴してゐるのである。そこでこの先人が刻苦して創造された價値の結晶たる文化を受け繼いで、その恩恵を蒙つてゐる我等は當然この文化の發達に各々獨自の本領を發揮して應分の貢獻を爲し、之を一層よりよくして次代の人々に引繼がねばならぬ義務を負ふてゐるものと考へられる。

故に私は、

その義務を遂行せしむべく各自の精力善用を訓練することが即ち勤勞陶冶の眞意義であると解するのである。

勤勞といへば唯働くことであるとい口に解釋されるが彼の無知なる農夫や大工等がその精力の利用には一切頓着せず唯仕來りの儘見覺えた通りに朝から晩まで一所懸命に力任せに働くといふが如きことではない。又之を單なる自己に對する道德即ち個人道德の如く解せるものもあるが決してさうではない。

働くことにその社會的意義を見出し、目的を自覺してその目的を貫徹せんが爲に、能率的に眞劍に身を入れて努力することが勤勞の本當の要領である。

凡そ個人の精力には限りがある。然かも之を過勞すれば所謂過能働性萎縮を招き、反對に勞することが不足すれば所謂不能働性萎縮を招く、唯適度に之を働かすことによつて精力を可能の範圍に於て十分に順當に發揮せしめ向上せしむる事が出来るのである。さればこの能働性肥大の原理に基いて精神力なり体力技術なりの善用を訓練して人生の義務を果すべくその生活能率を高調せしむることが眞に勤勞陶冶に意義づけるものであつて、この徹底如何が即ち教育の成果を測定す

る尺度であると言つべきである。

チン、マーマン氏曰く、君若し人間の遺傳的罪惡は何なりやと問はゞ、予は果して之に答へて何といふか。驕慢、奢侈、野心、私慾之なりと思ふか、非なり。予は之を遊惰の心なりといはん。遊惰の心に打勝つ人は自餘の萬事に打勝ち得らるべし。と

その遊惰の心に打勝つて勤勞を樂しむ習慣を得しむることこそ眞に人を生かす道である。ザイデル氏は、勤勞は教育の礎石である。と道破してゐる。

惟ふに世の文明の進歩につれて人間の勤勞が益々科學的となり機械的となり能率の増進が愈々促がされる爲に、一層精力善用の訓練の必要を加へて來てゐるが、かやうに勤勞様式が變つて來るに従つて、却てその自己の勤勞の意義を辨へずその悦びを感ずることが薄くなつて唯賃銀を得るため生活費を稼ぐためといふやうになり、そこに實際生活上の悩みを増大する傾向が著しくなつて來てゐる。この現代人の大いなる悩みを救ふ爲に根本的に喫緊な事はこの勤勞陶冶の徹底を圖つて、各人がその勤勞に愉悅を感じその職業の如何を問はずその自己の勤勞に誇りを覺ゆるまでに、自己衷心の満足を得てそこに安住の天地即ち勤勞三昧の境地を求められるやうにする事である。身を責めて心を生かせといはるゝ通り眞の生活安定は精神の満足によつて確保せられる。

その精神の満足は自己の全力を表現して人としての本分を立派に果しつゝあるといふ自覺の上を生ずるものであつて、この全力を表現せんとする眞劍の努力と人の本分を盡さねばならぬといふ自覺と信念とを缺いてゐるものには、到底眞の精神満足が得られないのである。凡そ不撓の忍耐を以て一つの事に全力を盡して従事するならば次第にその仕事に熟達してその能率を増進することが出来る。仕事の能率が擧がるにつれてその仕事に對する趣味が生じて來てやがていひしれぬ心の満足が得られる。たとへ趣味の無い仕事でも世の爲人の爲に盡して人としての本分を全うしようといふ社會奉仕の信念を以て熱心にその事に努力すれば必ず自ら自己衷心の満足が求められる。かくてそこに人としての生活の安定が望まれるのである。衣食足つて禮節を知る。恒産無き者に恒心無し。との語を至言なりといふが、然し衣食足つても、恒産が有つてもこの勤勞の眞意義を體得せざる者に禮節なり恒心を求めるとは出來ないと信ずる。本來眞の精神満足は必ずしも物質的慾望の満足と一致しないものである。富豪の人が却て眞の美味を知らず、避暑客が却て眞の涼味を知らず。破れたる着物を着ても足るを知らばつゞれの錦なりけり。等の句意を深く味ふべきであると思ふ。

然るに既に前に述べたるが如く我が教育界では遺憾乍らこの重要問題が案外に疎外されてゐ

る。それが爲に學校教育を長く受ければ受けるほど次第に勤勞忌避の風を長せしめ働きの道から遠ざからしむるが如き事態を招來してゐる。元よりこの事實を以て學校當事者のみを責めることは不當であると思はれるけれども實際に従來學校に於ける勤勞陶冶施設上幾多の欠陥を存してゐた事を否む譯にはいかないのである。

第二節 勤勞陶冶實施綱領

一、學習的勤勞を強調せよ

學習苦を感せしめずに樂に面白く學ばしむべしとの主張が可成り高唱されてゐるが、之は一應尤な事のやうに聞えるけれども仔細に吟味すればこの主張は學習指導の極致理想を意味するものであつてその過程的手段を示せるものではない。

自ら求め自ら啓き自ら築く自己統制の態度に於てのみ獨創の妙境は味ひ得られる。目的に導かれ、心から努め、理想に注目しつゝ作業する時エネルギーは最善の力を表し、その學習に對する喜びと工夫と發奮とが加へられて、次第に自己を知り自己を深められて行くのである。而してそこに切磋琢磨といひ、刻苦勉勵といはれる勤勞の過程が必然的に伴隨するのである。即ち學習に興味づけんが爲には先づ理會を得しめねばならぬ。理會を得しむる爲には兒童を濫りに苦しめないうやうに難澁せしめないやうに輔導上の工夫を凝らすことの必要なるは勿論であるけれども、それと共に一面に於ては兒童が相當の苦痛は之を堪へて自ら理會成功即ち自己解決を得んとする勤勞的活動をつゞけるやうに仕向けることが肝要である。その努力を拂はしむることによつて兒童

をして理會成功の愉悅を味はしめ勤勞價值を體認せしむることが出来る。而してその理會成功の度が加はるにつれて次第に學習興味が募つて来る。學習に興味づけられて勤勞度は更に高調される。勤勞度が高まれば愈々理會成功の愉悅が深められるといふが如く勤勞と理會成功と興味とは相關的に進展するのである。

斯くて苦惱は打消されて面白く楽しく學業に精勵することになる。その域にまで兒童を導く爲にその過程に於ては勤勞を督勵し、その勤勞に對する抵抗力を養ふべく或る程度の硬的陶冶を加味せねばならない。目的を手段化して爲に兒童を怠惰放縱に陥らしむるが如き事なきやうに相警しむべきであると思ふ。

この見地に基いて一般學習の勤勞化についての指導要件を擧げん。

1. 學習任務の意識を明確ならしむる事

學習に際して先づその任務を意識せしむることが肝要である。然らずんば一定の仕事成し遂げるだけの心構へがそなはらぬ。この心構へに隙があつては到底完全に學習の効果を收めることは出来ない。ところが實際に、手工は何の爲に學ぶか、理科學習の目的は如何等との問を發したならば、果して夫々兒童の程度相應に、明確に答へ得るやうに指導されてゐるであらう

か。修身教授に於て授けられた例話を覚えようと努めて居る者が多いか、範行に則つて自己の行狀を修めんと努めて居るものが多いか。算術の學習中に「今何をしていますか」との問を發した場合に「この問題をしてゐます」「此處をしてゐます」との答以上にその作業の内容に觸れた答辯を確實に求める事が出来るか。讀み方學習の場合、今はどんな目的で讀みつゝあるかを確かに意識して居るやうに仕向けられて居るであらうか。書取りを命じたとき「先生何べん書くのですか」と反問する者が尋常三年位の兒童の中にでも珍らしくないといふ事實は何を物語るものであらうか。など、の省察によつて私はこれまでの一般の取扱に少なからず不滿を感じてゐるのである。この点に顧みることなく漫然と兒童に目的々活動を望み獨自學習を強調せんとするが如きは無謀である。須らく先づ學習任務の意識を明確ならしむべく深く考慮せねばならない。即ち學習任務を意識せしむるといふことは抽象的に高遠な目的を注入指示することを意味するものではなくて、具體的に直接的な目的を認識せしめてその目的に向つて心を働かすところの心的態度をつくるといふ着眼の下に行はるべき根本的の一要件であるから、次の各項についての細心なる注意と研究を要する。

イ 各科學習の要旨を會得せしむべし。

各科教授要旨の研究が單に教師の心得の爲にのみ行はれるといふ事ではいけない。兒童にその程度に應じて各科の學習要旨を會得せしめるやうに用意すべきである。所謂學習モットーの如きは全校的に審議協定してその徹底を期するやうにすればよいと思ふ。

ロ、各種學習作業の目的を闡明すべし。

讀書、書取、作文、描畫、計算、觀察、實驗、製作等あらゆる學習作業に對し、その時所に應じて各目的を闡明し、兒童をして次第に機械的學習より自覺的學習に移らしむるやうに正しくその素地に培ふべきである。

ハ、目的と手段との分別に留意すべし。

學習上讀書は必ずしも目的ではない。修身の例話格言を覺えるといふことは必ずしも目的ではない。一つの細工を仕上げた作品を得るといふ事が必ずしも目的ではない。上級學校に入學するといふことが結局の目的ではない筈である。然るに實際にありては手段を目的視して妄動せる弊が認められる。淺墓なる結果本位の教育觀に累せられて居る事實が少くない。この点について省慮を要する。

ニ、適當に學習進度を豫告すべし。

教師の爲に教育細目を備ふるを以て足りりとなさず、兒童の爲に學習進度を豫告すべく適當のプランを作成する必要がある。

2. 自覺活動の促進に努むる事

學習任務を意識せしめ其の任務遂行の意志を刺戟する事によつて始めて自覺活動が行はれる。自覺活動には消極的と積極的との兩方面がある。

消極的方面—受動的—自制的—受容的—模倣的、
積極的方面—發動的—敢爲的—表現的—創意的、

そこで任務意識を明確ならしむると共に、この兩方面の自覺活動を順調に促進すべく、又多様の研究者慮を要するが左にその根本的要件三つを示さん。

イ、兒童をして自己の進歩を認識せしめ、その進歩意志を覺醒するやうに仕向ける事が肝要である。

それが爲には兒童の學業成績の横的比較を偏重せる弊を打破する要がある。但し兒童の心理状態からいへば他を凌駕せんとする欲求を満足せしむることが學習動機の原因力たるの事實を見近してはならぬ。お山の大将氣分を善導することを忘れてはならぬ。随つて相似寄つた

能力者間の横的比較は必要である。競争主義の教育法を全然否認することを許さぬ理由は全くこゝに存するのである。然し従来はこの用意を欠いて學級本位の横的比較を専一として甲乙丙——優良可等の評語を以て一律的に優中劣のレッテルを附するが如き取扱に墮して、爲に優秀兒の指導には或は利してゐたらうが、否優秀兒にも油斷慢心を生ぜしめ才氣を誇つて努力を輕んずるが如き不良の精神的習慣をつくらしむるやうな結果を招致する虞があつたが、殊に能力の優れざる兒童のためには夫れがその發達を阻害するカセとなり自暴自棄に陥らしむるが如き事になつてゐたではないか。宜しくこの點に反省を加へ個人の進歩を縦的に比較しその進歩及び成功を如實に認識せしむべく周到なる指導を加へるやうに爲さねばならぬ。かくて進歩成功の愉悅を味はせることが何人にも行はれる。それと相俟つて凌駕欲求の満足をも與へられる。そこで學習に對する興味が加はり、自覺活動が次第に促がされる道理である。この期待を實現する爲にも性能検査の施行、學業成績考査法の改良并に成績品の保存利用等に妥當適切なる解決を加へなければならぬ。即ち従来は天賦の稟質をも十分に究明せず學業成績の考査も單にその正確率の査定に止まり（實際はその査定も多くは教師の主觀に偏して頗る杜撰なものであつた）その速度率及び練習（陶冶）可能の限界に關する測定

を等閑に附して居つたから、兒童の勤勞度と進歩率を明確にする事が出来なかつた。随つて個に徹した學習指導が行はれず幾多の矛盾撞着をさへ存してゐたのである。兒童の自覺活動を促がさんが爲に先づこの弊根を剷除することに努めなければならぬ。

ロ、次に自覺活動促進上の要件として擧ぐべきことは理想（模範）の内在を發見せしむるやうに指導に努むるといふ事である。

二宮金次郎や渡邊登などの例話を説いてさうして單にそれを模範と仰がせるといふだけではいけない。兒童をして各自にそれらとの共通點を發見せしむるやうに内省せしめ次第に模範（理想）の自己に内存せることを自覺するやうに仕向けて以て發奮の動機を得しむる事が肝要である。さうするには兒童の程度に對して餘りに模範（理想）が懸隔があつては進歩の意志を刺戟して執意の標準たらしむる事が出来ぬ。そこで理想的模範と相併せて實際的模範の提示を必要とする。兒童相互の美事善行の推奨、相互の作品鑑賞等はこの意味に於て必要な事である。

ハ、第三の要件としては、獨立的使命を感得せしむるやうに注意する事である。

抑も自己に對する尊敬は心身發達の基礎であると共に、道德的社會的修養の根本要件であつ

て、自覺活動の基調は正に茲に存するのである。そこで前にいへるが如く努めて各自の長所を自覺せしむるやうに配意すると共に進んで個性の獨自性を省察し自己存在の絶對價値を認識せしむるやうに導き以て獨自的使命を全うするの素地を啓培すべきである。左に掲ぐる文章は兒童が自由にした、めたものでその自覺的心境の一端を窺ふことが出来る。

○ 昭和五年を迎へて

高二

加納房吉

私は中等學校へ行くことを希望してゐましたが、家庭の都合上行くことが出来ず、こゝを卒業すればすぐ實社會に出て行くことになりました。八年間の長い年月も夢のやうに過ぎ去り、もう僅か三ヶ月しか楽しき學校生活は続きません。然し今の私には先生達の熱心なる御指導により大分社會の苦勞といふことも味はれました。又先生の親切なるおはからひにより冬休を利用して郵便局へ行くことが出来たので實際の勤務の一端をも經驗しました。それで私は中等學校へ行けずとも必ず勉強に精を出し、日進月歩の世に立つことの出来る人間になり母校の名譽を汚すやうな事は決してしない覺悟です。私は分りきつた事でもいくごも聞いて見る癖がある。兇暴な性質はもたぬ。欠点は他人に負けずにやつてみるといふ氣象が乏しい事である。又一時にきばつて能力を發揮するといふことに於て欠けて

ゐる。然し次第に力を入れて根氣よくやる点に於ては誰にも負けないと信じてゐる。私は凡才である。先生に忙しい時間を割いてわざ／＼していたゞいた性能検査の結果にみてもさほどの好成绩を表はしてゐない。そのかはり苦勞してデクリ／＼と秀才に打勝つといふすぐれた精神が少々宿つてゐます。そのおかげで相當の學業成績を擧げることが出来、ほんとに喜んでゐます。私にはまだ／＼底知れぬ力が宿つてゐます。益々眞劍に勉強しようと思ひます。私には眞の勇氣、眞の度胸が乏しいと感じてゐます。諸君の前で辯舌をふるはんと思ふとき氣がいら／＼して思はぬ失敗をして顔を赤らめる。これでは一生頭があがらぬであらう。いよ／＼目醒める時が來たのだ。この新年を迎へてから一段の努力を拂はうと思ひます。

○ 企

長岡由雄

私の學校成績は十分でない。でも社會に出れば實力を十分に發揮してみせます。身体は弱くはありません。僕には優れたる技能があります。僕は前からさう思つてゐました。夢でもみました。そしてその技能を發揮する機會があつたのに、僕が熱心でないから逃がしてしまつたやうに思ふ。これは僕のぐちでありますが開いて下さい。………僕は學校

でも家でも一日にたとへ一時間でもよい、人のあまり來ない場所と時とがほしい。云々

○ 全

玉野 歳 男

性質は温順な方であらうと思ふ。亂暴なことは嫌いでやさしいことが好きであつて、運動も好きな方ではない。書物を讀んだり、字や繪を書いたりすることが好きで、殊に細工事を好む。雑な事は嫌いで丁寧にならねば気がすまぬ方である。時々トンキヤウな事をいふ性がある。能力は普通だらうと思ふ。身体は弱い方である。これからはつとめて運動をして大いに身体をきたはねばならないと思つてゐる。新年を迎へてもう三月すれば學校を卒業するのであるから、締めくくりをつけ、且つ従事する職業方面の研究をも進めて社會へ乗り出し、己の職業に對して改良を加へて行くやうにしなければなるまいと決心してゐる。私の体では例へば労働者にならうとしても身体が續くまい。それでこの体に適當し又性質上からいつても適してゐると思ふ會社員か細工師になりたいと思つてゐるが、父ははり醫師になれとすゝめるから或はそれになることにするかも知れない。

3. 學習を能率的たらしむべくその要領を正す事

任務を意識しその任務を遂行せんとする意志を生じ自覺活動が誘致されてもその努力をして能

率的たらしめねば學習の効果を十分に收めしむる事は出來ぬ。即ち精力の善用についての訓練の必要なる所以である。無駄骨を折らせぬやうに、精力を經濟的に利用せしむるやうに「何を如何に學ぶべきか」についての知識を開發し學習を計畫的に爲さしめねばならない。さて學習法は兒童の發達程度とその事項の如何に應じて夫々考究せらるべきであるが、凡そ

イ、機械的學習作業（判斷活動を多く要せざるもの）

珠算練習の如き、或は素讀并に書取練習、縫方練習の如き機械的學習作業ならば興味と注意と意志の惹起を必具條件として、單純化されたる方法で主一的に一事貫行的に反復することがその能率を學ぶる學習原則であると考へられる。

ロ、理智的學習作業（判斷活動を主とするもの）

判斷活動を主とする學習作業ならば、先づ各自の認識の明確を期すべきである、それが爲に

は (一) 観察實驗を尊重してその要領態度を得しむること。

(二) 想像の訓練に留意して、想像の構成條理即ち觀念の分析取捨綜合の理路を立てしむること、
 くに努めて空想に墮せしめざるやうに注意のこと。

(三) 思考統覺の陶冶に留意して、判断推理の形式を正し概念的整理に努むること。
等がその主要條件たるべきで、その上に更に應用練習を重んずる事が肝要である。

ハ、藝術的學習作業（情意活動を主とするもの）

主に情意活動に訴ふべき藝術的學習作業にありては専ら

(一) 鑑賞の要領を正し、謙虚の態度で對照物に直面せしめ自他融合（所謂感情移入）の妙諦を味得せしむること。

(二) 眞剣に眞實の自我を表現せんとする態度を確立せしむること。
を以てその主眼と爲すべきであると考へられる。

故に是等の要件に基いて兒童の發達程度を顧慮してその學習事項に應じての學習適法を規定する事が出来るが、然しすべての兒童に對して一定の學習法によつて全然之を一律することは不可である。何となれば個性によつて或は悟性的に了解するもの、或は感情的に把握するもの、或は技術的のものなど多様の相異があるから、そこに個人的に特異の學習法を認むる必要があるのである。

然れば共通的一般的學習法を偏重して學習上の個性的妥當性の發揚を阻止するやうな事にな

つてはいけない。

又反對に個人的學習法を偏重して妥當なる一般的學習法の示教を閑却してもいかぬ。吾人はこの両見地に立脚せる正常な學習要領を考究して兒童の程度に應じ秩序的に學習法に關する指導の徹底を圖るべきである。茲に深く留意するところなくして漫然と自由學習を強調せんとするが如きは論外である。

4. 作爲發表の機會を多く與ふる事

學習とは受容と表現との相關的進展によつて智能と品性を修練することである。然るに従來一般にその受容方面を偏重し、併かも文字又は言語による記號的注入教育に墮せるが故に受容方面の基本的要件たる直觀指導の不徹底を招き直接資料による學習陶冶が不十分となり兒童の觀念内容を確實ならしむる上に多大の遺憾を存して居つたことは顯著な事實であるが、更に大なる學習指導上の欠陥たりしはその表現方面を輕んじてゐたことである。随つて兒童の學習は皮相の知解に流れて味解體驗獨創の深刻味を欠くに至つた。この欠陥を補ふべく作爲發表の機會を多く與へて、作業訓練の徹底をはからなければならない。作業は即ち精神活動の有意的、意識的、合目的々表現である。故に精神作業と身体作業とは別個のものではない。所謂知的教科

の學習は普通に精神作業といはれるが、然しその精神作業には必ず或る度の筋肉運動が伴つてゐる即ち身体作業が伴はねば完全能率を擧げることが出来ないのである。

また技能教科の學習は主に身体作業であるが必ず或る度の精神過程を含む。然らざればその學習の成功を望むことは出来ないものである。然るにこの人間の生命活動を二元的に眺めて精神作業と身体作業との必然的相關的陶冶の上に前述の如き弊習を生ずるに至つたものと考へられる。凡そ吾人は實行に於て自己を描き出すものである。又百聞百見は共に一試に如かざるは自明の理となすところであつて言語文字繪畫手工等による表現的訓練が行届かなければ堪能なる技能は勿論、明確なる認識をも獲得せしむることは出来ないのである。されば教師はその饒舌を慎しみ冗漫なる説明と不要の助言とを避けて、兒童をして勉めて自立的に自由に率直に多様に自己表現を試みしめ所謂「爲すことによつて學ばしむる」といふ事の徹底を圖り以て學習の勤勞化を高調すべきである。

學習の作業化、ノート指導の徹底、手工教育の振興等が高唱せられる所以は茲に存する。

5、適當に共同學習を行はしむる事

兒童が互にその交友より知らずくの間を受くる感化影響の大なることは敢て説明するまでも

ない事であつて、教師が及ぼす夫れよりも大きな結果を齎らす場合さへある。然ればその兒童間に於ける相互影響の善導といふことは實に教育上喫緊の一要務である。

- イ、兒童の自治的中合せを重んずること
- ロ、特に兒童間に於ける權勢者の善導に留意すること
- ハ、兒童間に於ける正當なる相互制裁を高調すること
- ニ、兒童の美事善行の推奨に努むること
- ホ、校下の部落的教化に意を用ふること
- ヘ、善良なる校風の樹立に努むること

職員世丁兒童共に勤勞を樂しむといふ風が校内に漲るやうにならねば、眞に教化の實を擧ぐることは出来ない。

等の如きはこの見地より當に考慮すべき問題であるが更に積極的に兒童相互が協力することによつて各自の智能の修練并に社會人としての品性の教養が自ら促進せらるべきその陶冶價値を見通してはならぬ。是れ教育上兒童相互の協力的陶冶に深く留意するところがなければならぬ所以である。従來行はれた教育教授上の欠陥の一つは確かにこの兒童對兒童の關係交渉の一

面を輕視してゐた點である。そこで私の提唱してゐる共同學習の意義は之を約言すると次の通りである。

共同學習とは即ち兒童相互間の影響の善導と、兒童相互の協力陶冶とを主旨として、兒童の互助的情誼と共勵的精神とに立脚して行はしめらるべき學習の一過程である。

この見地より兒童の學習的勤勞を高調すべく左の如き共同作業について適當に指導を加ふべきであると考へるのである。

- イ、辭書の利用
- ロ、參考書の利用
- ハ、直觀資料の蒐集交換利用
- ニ、質疑應答
- ホ、相互批正(鑑賞)
- ヘ、研究問題の交換
- ト、協議及び討論(研究問題及び研究法等に關する協議、問題解決の爲の審議討論)
- チ、共同復習

リ、共同査定

ヌ、共同實驗、製作、飼養、栽培等

共同學習を行はしむるに當つて種々注意すべき事項があるが、特に大切な事は、相互の長所并に努力を敬重し合ふ精神態度を涵養することに意を用ふるといふ事である。即ち性來能力の鈍きもの、努力を無視したり、才氣ばしつた者が努力を輕視するが如き事のないやうに細心なる注意を拂つて之を教導することは直接學習能率を高むる上には勿論、特に社會人としての教養を得しむる上に極めて緊切な事である。

二、手工教育の振興を圖れ

1、手工の教育的價值

イ、手工は確實なる認識と堪能なる技術とを得しめる
粘土を以て簡單にま、ご道具を作るにも、一枚の紙から櫻の花を切抜くにも、竹片を以てハジキ鐵砲を一つ拵へるにも、その作業を遂行せんが爲には、感覺の働や手指腕等の筋肉運動の共働を要するばかりでなく必ず之に想像や比較推理判斷工夫意匠等の精神活動が伴はねばなら

ぬ。それで幼稚な時代に於ては是等諸方面の協働が容易でないからその作品は粗造不完全を免れない。然し兒童は表現本能や製作的衝動に驅られて喜んで砂團子をこしらへたり雛人形を切抜いたり笹舟を作つたりなどして餘念がない。單に聴くことや空に考へるといふことには直ぐ倦怠を覺える子供でも何かの細工には倦むことを知らないといふのが常態である。

さればこの強き能働的性向に應じて適當に手工を學習せしむるならば次第に手指の技巧を進めて技術的堪能を得しむると共に、精神活動を精確敏活ならしむる事が出来る。即ち筋肉運動は腦髓の統制を促がし、腦内の協調活動の習熟は手指の運動を彌々巧みならしむるといふ相關的發展を遂げるのである。随つて一般學習能率の上から見ても、彼の記號教育を偏重して兒童の學習が暗記を意味して内的に體驗せしむることが缺け、單に知識の集積を以て能事となすが如き通弊を速かに打破して、須らく勞作によつて自ら確實なる認識を獲得せしむべく、學習上大いに手工的作業を加味せしむる必要がある。斯くてこそ順當なる知的創造性の發達をも庶幾することが出来るのである。フレーベルが夙に造形的描寫的勢力の能働的使用は單に所謂所働的なる受容や直觀の作用よりも遙かに重要な事であると説ける所以は全くこゝに存するのである。ナポレオンが彼の尊き體驗から遺された幾多の金言中に「我が手は我が腕の端に接續せず

して直接我が頭腦に接續せしむべし」との語があるがまことに味ふべき言ではないか。

彼の「眼を陶冶せよ、手を習練せよ、意志は自ら鞏固となり、理性は鋭敏とならん」との格言も夙に普く知られて居る事である。實に吾人の心身は一つの感受的發表的裝置によつて成れるものである。即ち一方に外界の刺戟を感受すると同時に他方に内界の反應を外に發表するといふ二つの働きをそなふるカラクリであつて、手はその最も主要なる要素である。この裝置によつて吾人の心身のすべての活動も發達も得らるのである。而して世の文明につれて吾人の生活擴充と相俟つてこの裝置は愈々その發達を催進される。器具機械の製作利用はすなはちこの裝置の擴大を意味する。器具機械は全く吾人の感受發表的裝置の延長線であることを見る事が出来る。随つて吾人が今日の文化生活に堪へんが爲には、將又文化生活の向上に寄與せんが爲には必ずやその器具機械と神經との連結を圖らねばならない。この見地よりするも手の教育は愈々その必要を加ふるのである。併かもその筋肉の陶冶性に富める時期は凡そ滿六、七歳から滿十四歳まで、あると云はれてゐる。されば手指の技巧を修練せしむべく手工科の負ふところの使命も亦重大なりといふべきである。

ロ、手工は、道德的體驗を豊かならしめる

修身科の教授の實際を見るも亦單に道德的知識を示説注入するを能事となし、言葉の上ばかりで道德を取扱へるものが多い。随つて實行の習慣を正し道德性の發達を促す上に該科の教授によつて齎らす貢獻は頗る稀薄なものになつて居る。「兄弟は仲よくすべきものである」とか「人は正直でなければならぬ」とか「労働は神聖である」など、怜悯さうな口を利くことは教へられてゐるが、さういふ事に幾何の自覺と實行力と信仰と自己感激とが養はれて居るであらうかと顧みる時、寔に忸怩たらざるを得ない状態にあるではないか。

併かも一般に偏狭なる教授觀に囚はれて實際上所謂教授と訓練とを全然別作用視し、之を二元的に取扱ふが如き弊を生ずるに至つて居る爲に各科の學習を通じて當然行はるべき訓練をも等閑に附せる嫌がある。

かくて學校に於ける道德教育の實績は如何にも心もとなき程度のものになつてゐる。之は畢竟道德の創造的發達に對する指導上の矛盾に胚胎せる缺陷に外ならないと思はれる。凡そ吾人は自己の體驗によつてその天賦の價值創造の人格的可能性に順當なる刺戟を受けて次第に自我を擴充して自己衷心の満足慰安を深め、そこに仁を生じ義を成し俯仰天地に恥ぢざる不動心を確立して道德堅固の人格者たるに至るものである。されば作爲行動に訴ふる事なくして單に例

話を授け教訓を與ふるのみにて道德性の發達を望むが如きは大きいなる錯誤であるといはねばならぬ。

道德教育の眞の成果を求めんには宜しく本能的活動の満足を得しめつゝ道德的事實の直觀指導に努め之に自己の體驗に對する内省的陶冶を加へて意識的模倣を高調せしめ、以て次第に道德的創造性の發展を遂げしむるの方途を講ずべきである。於是學校では常にあらゆる道德的體驗を得しむべき機會を與ふるやうにせねばならぬ。而してその體驗に對して反省自覺を促す事の容易なる施設を擇るべきである。

予はこの見地に於て手工教育の當然負ふべき一大使命を確認するのである。即ち手工は活動性に富む兒童の最も好む作業の一つであつて併かもその作業の過程及び結果に於て最もよく個性が表れる。さうして自然的に誠實忍耐勤勉奉仕等の道德的體驗が深められ、その作品に必ず作者の品性を如實に反映するのである。

ロツクが手工は兒童に着實なる思想を與へ、個性の發達を圖り、勤勉力行の習慣を養ふ等德育上の價值甚大なりと云つて居るが全くその通りである。

その計畫に於ける粗漏は靦面に作業能率の上に影響し作業場の不整頓は必ず仕事に障礙を來

たす。また作業に當面しての不注意不秩序の所爲は概ね失敗と怪我を伴ふものであるが、目的に導かれ、心から努め、理想に注目しつゝ、作業する時はおのづから、その労作に對する喜びと工夫と發奮とが加へられて、次第に自己を知り自己を深められて行くのである。さうして材料や工具や工作法等の吟味研究が進められるにつれて、己が蒙れる天與并に人爲の惠澤にも觸れ、所謂發見發明の文化的貢獻の大なる事をも味ふことが出来る。かくてペーコンがいへるが如く、自然は之に服従するものでなければ征服されない。自然を利用せんとするものは先づ自然に従順であり之を愛さなければならぬ。自然を愛するものはその性を知りその法則を理解することが出来る。その性を知りその法則を理解したものは之を利用し活用することが出来る。この利用厚生の妙諦をも感得するに至らしめることが出来る。

實に手工教育は斯くの如く道德的陶冶の上に深甚なる貢獻を爲さんとするものである。

ハ、手工は職業的陶冶に資するところが著大である

手工教育が職業的陶冶に資する主要點は

第一、觀察實驗とそれに伴ふ自己省察の實地訓練とによつて順正合理を尊び、正確堅實を旨とする確實性を陶冶することが出来る。

第二、人間は本來その通有性として幼時より自己表現を熱望し、すべての障礙に打勝つて創造せんと焦心するものである。されば適當に手工を課することによつて愈々独自の工夫創造力を助長することが出来る。

第三、富める者は仕事をしないでも暮らせるから幸運であると思ひ、貧しき者は勞働を歇めさへすれば達せられるといふやうな天國を心に描いてゐる。といふが如き人心の墮落を匡救すべく、勤勞の價値を體驗せしめ勞作に興味を覺えしむる事が出来る。

第四、物的の生産價値を直接經驗によつて明かに認識せしむることが出来るから、經濟的態度を養成することが出来る。

第五、自己の適性を自覺せしめ職業選擇の思慮を深めることが出来る。等である。

以上概叙せる事によつて國民大衆の基礎教育上手工科の占める地歩の重要性を知ることが出来る。然るに實際には未だ一般に之が教育の實績を十分に擧ぐるに至つてゐない。まことに遺憾な事である。

2. 手工教育實施方針

イ、興味本位の作業を主とすべき時期——尋常第一、二學年

この時期の兒童の勞作は専ら衝動的で模倣的であつて、創意的自己活動も之に促がされて起るのである。而してその觀念及び技巧に於て未だ巧緻を望み得ざる程度にあることはいふまでもない。然ればその勞作の結果よりも勞作活動そのものに目的を措いて自由に率直に且つ多様に生活表現を試みることに興味づけるやうにつとめて、さうして表現的製作的本能を遺憾なく發揮せしむると共に諸覺官の基礎的修練を全うせしむることを以て之が指導の主眼となすべきである。然るに今日猶一般に模倣本位の畫一的取扱か、若くは放漫なる自由主義の取扱かに片寄つてゐる憾がある。前者は兒童の自己活動を抑止し創造的興味を失はしめ勞作々業の順調なる進展に對してそのスタートを誤らしめ、後者は一部有能なる兒童の爲には或は利するところがあるも、多數の兒童に對する基礎的の作業訓練を不徹底ならしめてゐる。

されば實際指導上特に左の如き注意を要する。

(一) 自由と容易とを得しむること

- A、教材、材料及び時間の劃一的制限を強要してはならぬ。
- B、適當なる工具、材料を提供すべきである。

C、妄りに直接的助力を與へてはならない。

D、教師の實際的示範によつて啓發輔導に努むべきである。

E、勞作動機に適當の刺激を與ふべきである。

是等の點に留意して勉めて指導を個に徹せしめて、次第に勞作の容易と自由とを得しめ遊戯を作業化し、勤勞に基礎づけるやうに自然的の進展を期すべきである。

(二) 想像力を利導すること

(三) 作品を尊重すること

(四) 作業の基礎的訓練に留意すること

A、材料を濫費せしめてはならぬ。

B、準備及び後仕末を正しくなさしめねばならない。

C、作業の計畫、秩序、清潔、整頓を重んぜしむべきである。

D、粘土細工の場合には豫め爪を切り置くこと、その仕事の前後に於てよく手を洗はしむること。

E、工具及び濕布（粘土細工用）手ふきん（糊貼用）等の取扱を正しく習慣づけること。

F、作品を丁重に取扱はしむること

ロ、美的好尚の訓練に重きを加ふべき時期—尋常第三、四學年

美意識の啓蒙と之に伴ふ感情の醇化とについては務めて幼時より相當の注意を拂はなければならぬ。而して圖畫教授と相俟つて秩序的に美的陶冶の進展を圖るべきは本科教育本來の使命を全うする上に最も大切なる事項の一つである。そこで美意識の發達と手指の働きに漸く精緻を加へ來るべきこの時期に至つて漸次色彩并に形体美及び工作手際の巧拙等に關する觀照省察の訓練を深めて美的感情を陶冶すると共に、作業を能ふ限りに於て計畫的たらしめ、以て次第に無意識的模倣より意識的模倣へ、模倣より創作へ、拙速より巧緻へ進展せしむべく、自然に勞作上の意匠工夫と正確さとに對する指導程度を高かめて行かねばならぬ。即ちこの時期に至りては手工科の藝術的陶冶方面の使命を果さんが爲にその基調たるべき美的好尚の訓練に重きを加へて、之が實際指導上特に

(一) 模範觀照と省察訓練を重んずること

(二) 技術の基礎練習に努むること

に深く意を用ふるの要があると考へるのである。即ち製作見本、工作意匠、裝飾圖案等の標本

參考品、分解標本、兒童作品等の蒐集保存利用に努むると共に、兒童の作品に對して一層入念に、兒童自ら模範に照合し定規尺度等の規矩的方便物によつて檢察を加へ、自己の失敗と會心の点を明かにし次第に進んでその藝術的價值と實用的價值との兩方面より正當なる評價を下し得るやうにその素地に培ふべく教師は尤も慎重丁寧なる批評を與ふべきである。しかも教師の批評は欠点の指摘を主とせず長所の推賞に努むべきである。個人の進程を認めてやり兒童自らにそれを自覺せしめて進歩意志を刺戟することに努むべきである。なほ名、巨匠の苦心談などを挿んで省察訓練に資するの用意が肝要である。而して漫然と勞作活動そのものに興味をもつといふのではなく、次第に自己の手が自己の頭腦と結合せられて自己の意志の儘にその手の延長としての工具をも自由に正しく使用することが出来るやうになる事に興味をもつ域にまで進ましめなければならぬ。それが爲に技術的要領を正すべきは勿論、工具の手入を入念ならしむるやうに指導すべきである。

ハ、勞作の合理化に努め職業的陶冶を加味すべき時期—尋常第五、六學年

従來一般に技術の機械的練習を偏重して所謂手を腕の端に接続せしむるに止まつて之を頭腦に接続せしむるまでに陶冶されてゐない憾があつた。又物の手入をさせるのに切刃の傾斜角度

と切味との關係を理會せしめずに放任してゐたり、その使用せる材料の名稱をさへ知らしめなかつたり、鉋身の出入れについて槌の當て方の理法を確かめてゐない者があつたりすることが必ずしも珍らしくない状態を呈してゐた。かくては勤勞陶冶の精神に觸れず随つて勞作の能率を十分に擧げしむることが出来ない。されば兒童の發達程度に應じこの時期より理科算術乃至地理科等に於て單に之が知識を目と耳から注入して足れりと爲せるが如き教育上の時弊を打破して一般學習の作業化に努むると共に、本科に於ては勉めて材料工具についてその性質用途構造使用法等を明かにし、各種の工作法の研究と相俟つて製作物の用途と光・熱・水等との關係及び製作物そのもの、安定荷重使用上の便否材料利用の適否工作能率の進否等についてその理解を確實ならしむるやうに指導し以て勞作の合理化についての基礎訓練につとめ、進んで職業的陶冶に資すべく相當の配慮を加ふべきであつて、特に左の取扱に遺漏のないやうに注意を要すると考へるのである。

- (一) 修身國語算術國史地理理科圖畫家事裁縫等の諸教科との連絡に努むること
- (二) 作業の計畫を正し之を能率的たらしむること
- (三) 職業的適性の自覺を促すこと

ニ、職業的陶冶に努むべき時期—高等第一、二學年

この時期に及んでは兒童の發達程度と生活要求とに鑑みて愈々勞作勤勞の訓練を強調して實にして創造的なる人格陶冶を期すると共に特に工業に關する理解と趣味の助長に努むべきである。されば既に述べたる手工教育の「職業的陶冶に資する主要點」を參照して實際教授上左記の如く配慮すべきであると考へる。

- (一) 材料工具の購入方法及び利用上の經濟的思慮を練ること
 - (二) 製圖并に工作の要領を努めて實業界の實際に適合せしむること
 - (三) 器具機械の修理に關する實習をも試みしむること
 - (四) 商業科を學習せる兒童の爲には商品學的事項及び包裝荷造法の如き商業實習との連絡に努むること
 - (五) 農業科を學習せる兒童の爲には特に土地の情況に應じ適當に副業的手工を加味すること
 - (六) 勉めて展覽會博覽會及び各種工場等を見學せしむること
 - (七) 斯くして愈々作業に堅實味を加へしむべきこと
- い、工作圖を描きてその工程豫想と材料見積を確實に行はしむべし。

ろ、作業中常に机上の整頓に注意し秩序正しく「手さばき」よく仕事を片着けしむべし。
は、刃物其の他の工具の手入を怠らしめざるやうに注意すべし。
に、作業と時間との關係に注意を拂ひ自ら能率の向上を圖らしむべし。
ほ、作業の中止及び後仕末等を規律的に行はしむるやうに仕向くべし。
へ、表面糊塗の作業に墮せしめざるやうに注意すべし。かくてあくまで人格の試練と生産的能率の向上に對して徹底的にその基礎修練を遂げしめんことを期すべきである。

3. 手工科學習指導モツト

- イ、目と手と頭とを鍛へ
- ロ、計畫を立て、秩序よく
- ハ、材料と努力とにむだをすな
- ニ、過失をいさぎよく告白せよ
- ホ、作品は人格の鏡なり。反省を怠るな
- ヘ、正確は工作の生命なるぞ
- ト、作品の美化は商品としての主要素なるぞ

チ、工具愛用と其の整理は工作能率の父、人格修養の母なるぞ

三、實務的勤勞の訓練に留意せよ

以上概叙せるが如くにして勤勞の習慣を基整しつゝ、次第に讀書、綴文、ノート、計算、讀圖、觀察、實驗、描圖、工作、農作、商事、家事、裁縫等の諸作業の實務化に努め、以て實生活適應の教育指導の徹底を期すべきである。

1. 工業科に於ける實務的訓練の特別施設事項

- イ、勤勞奉仕日
毎週火曜日放課後を勤勞奉仕日として校舎の修繕、器具機械の修理及び製作、教室校舎の洗濯等を爲さしむ。
- ロ、特別製作日
毎週土曜日放課後工業教室を開放して兒童各自の希望品、家庭の要求品等の製作又は修理を行はしむ。
- ハ、課外特別指導

兒童中就職向確定せる者につき希望に應じて課外に特別の指導を與ふ

ニ、註文製作

他よりの註文品を兒童の技能に應じ課外又は實習時間の餘裕を以て製作せしむ。

ホ、工場整理

毎月一回手工教室工業教室材料置場の整理及び機械工具の手入修理を爲さしむ。

2、商業科に於ける實務的訓練の特別施設事項

イ、商業室當番勤務

第一學年兒童をして順次商業室當番勤務に服せしめて、商業室整理、用務の傳達取次及び手傳、計算整理事項の補助、實習販賣事務の手傳等を行はしむ。

ロ、商業實習販賣部を設く

第二學年兒童をして之に當らしめ販賣、金錢計算、傳票記入及び計算、帳簿記入、預金并に引出、仕入手傳、商品保管及び整理、其他必要なる商業實務の實習を爲さしむ。

ハ、商業研究部を設く

第二學年有志の兒童をして教科書中の事項、新聞雜誌所載商業關係事項及び各種商店につき

て勉めて實際的研究を行はしめ、商業週報を發行せしむ。

ニ、小遣帳記入の獎勵

各自に之を行はしめて簿記の實習に資す。

3、更に課外に於ける日常生活上の實務的勤勞の訓練に大いに意を用ひ、以て業種の如何を問はず凡そ社會に於ける實際の業務に就くに共通的に必要なる基礎的教養を全うせしむるやうに適切な指導を加ふべきである。

兒童が掃除中に箒を持って活劇の真似をしてゐる。汚れた儘の雑巾で拭いてゐる。庭に塵紙反古が落散つてゐても拾ひ捨てようとしなない。教室内が不整頓であり、掛圖や運動道具等の置場がいつも亂雜になつてゐる。しかも師生共にその不秩序不整頓に馴れて何とも感じない。不都合な行を爲せる兒童に罰法として教室の掃除當番を命ずるといつた風な矛盾さへ行はれてゐる。それで修身科の時間には清潔を尙べ、整頓を正しくせよ、勞働は神聖なりなど、説いてゐる。かゝる教育上の自家撞着の弊を剷除せねばならぬ。即ちかやうな日常生活上の常務について夫々その作業目的を明かにし、その要領を正して家庭、學校を通じて兒童が自ら進んで之を能率的に行ふやうに不斷の指導を要するのである。

之に併せて一般行動に對する社會的訓練の徹底を圖るべきである。

イ、掃除十訓—高等第一學年女兒の或る學級の自治會で申合せたものである。

- (一) 窓をあげ放して掃きませう
- (二) 掃除は上から次第に下へ
- (三) 机も床も鏡のやうに
- (四) 雑巾がけは埃を拂つてから
- (五) 水は何度もきれいにかへて
- (六) 棧や敷居を忘れぬやうに
- (七) 壁、天井へも目をつけて
- (八) あごの整頓を念入りに
- (九) 道具を一々かたづけ
- (一〇) 手足のよごれも清めませう

ロ、日々實踐十訓—一日に最善を盡すべく私自身の指箴を爲せるを教示せるものである。

- (一) 晨起、朝早く起き

- (二) 報謝、今日の恵みを有りがたく思ひ
- (三) 實語、いつはらず
- (四) 直言、かざらず
- (五) 軟語、角だてず
- (六) 勤苦、つこめいそしみ
- (七) 奉仕、親切を盡し
- (八) 推讓、じまんせず
- (九) 致悦、誰とも仲よく、悦び合ひ
- (一〇) 安眠、安らかに眠つて、また明日の榮光を迎えん

ハ、日常實踐指導主要項目

- (一) 時間的規律を守ること
- (二) 衛生を守り公衆衛生に注意すること
- (三) 清潔を尚び掃除を怠らぬこと
- (四) 物を大切に扱ひ整頓を正しくすること

- (五) 金錢と精力を浪費せぬこと
- (六) 應對及び仕事の上で他人に不安不快の感と不便利とを與へぬやうに注意すること
 - い、容儀を正し、愛想よく
 - ろ、落着いて、注意深く
 - は、氣を利かす
 - に、應答をいさぎよく、はつきり
 - ほ、禮儀正しく
 - へ、機敏に
 - と、辛抱強く、不平をいはず
 - ち、勞を厭はずに、人のいやがる仕事を進んで爲し
 - り、よく協同して務めを果し
 - ぬ、親切を盡すこと

ニ、特別施設事項

- (一) 職員室詰當番勤務

來客の取次、電話聴取、用達等の實務に當らしむべく上級兒童を二名宛二日交替にて順番に勤務せしむ。

(二) 應接室當番勤務

來客の接待、應接室の整理、用達等を爲さしむべく上級の女兒をして二人宛二日交替にて勤務せしむ。

(三) 家事手傳の奨勵

學科の復習豫習に藉口し、或は遊惰に耽つて家事手傳を厭ふ弊習を打破すべく家庭と連絡して家事手傳の奨勵に努む。

第八章 職業理解

勤勞陶冶と相俟つて職業に關する理解と堪能とを進め、職業精神を鼓吹し、職業選擇の能力を啓培する事が我が國民教育の實質的改造の主要件であるとの主張は既に記述して置いたから、これからその實施要項を列擧することにしよう。

第一節 各科學習指導上の注意

一、修身科

- 1、共同聯帶生活に對する正しき理解を得しめ、國民精神の作興に努むると共に兒童をして各自その個性境遇に省み時勢の趨向に鑑みて夫々妥當なる自營奉公の要道を覺知せしむるやうに意を用ふる事
- 2、發見發明・創作創業の苦心とその社會的貢獻の事例立身成功上の美談逸事等に對する感銘を深からしむるやうに之が取扱及び教材補充の上に周到の注意を拂ふ事

二、國語科

- 1、文字の習得を確實ならしめ、職業上の日用語彙の整理（特に街頭にて目撃する看板廣告類に注意せしむる要あり）につとむる事
- 2、業務上の書信の讀解及び認め方の練習指導を重んずる事
- 3、職業に關する文章の取扱に注意して職業精神の鼓吹業務業態及び職業法規の理解等に資する事

三、算術科

- 1、産業經濟人口食料住宅衣被料職業等の諸問題に關する知識の啓培に資すべく
 - イ、教科書所載の問題の事實及び術語の上に注意する事
 - ロ、補充問題の材料選擇・作問材料の提供方について特に考慮を拂ふこと
- 2、珠算の練習を重んずる事

四、國史科

わが國に於ける職制の變遷・名人巨匠の事績・對外關係の我が國文化殊に産業に及ぼせる影響の事實等についての確實なる理解を得しむるやうに努むる事

五、地理科

1、産業状態及び發見發明并に交通の發達等が之に及ぼせる變化の事項についての理解を與ふる事

2、主要なる産物については宜しく商品としての價值生命を明かにし且つ我が國の産業乃至國民生活の對外的交渉を詳かにし、以て我が國産の改良經濟生活の安定に資すべき基本觀念の啓培に努むる事

六、理科

1、自然物及び自然現象に關する確實なる基礎的知識を得しめ、之が利用厚生的事实及びその作業并に精力勞逸の原理についての理解を開發し、進んで特に手工工業家事裁縫等の教授及び家庭に於ける日常作業と連絡せしめて勤勞陶冶に資する事

2、發見發明に關する事實を舉示して創造力の涵養に資すると共に感謝奉仕の念の啓培に努むる事

七、圖畫科

特に鑑賞力の養成と實用的描畫の練習指導に意を用ふる事

八、裁縫科

1、各種衣被料の品質用途價格、各種仕立方及び其の仕立賃、製品の時價、技術習得の過程等についての實際的理解を與ふると共に進んで衣服の裁縫及び保存整理法等に關する専門業の一般狀況を知らしむる事

2、作業訓練の徹底を圖る事

九、家事科

婦人本來の使命に對して正しき理解を與へ、その一般的素養を得しむると共に、職業界に於ける婦人の進出についての情勢を知らしめ職業婦人としての心得の概要をも會得せしむる事

一〇、商業科

1、本科は萬人の實生活に觸るゝ學科なるが故にその取扱は極めて實際的具体的たらしむべくなるべく注入を避けて兒童の日常見聞せるところを本として批判討論を進めしむるやうに指導する事

2、勤勞は尤も大切なる商業資本である。學校と家庭とを問はず苟も之が勞務は自他の爲欣然としてそれに従事するやうに仕向くること。

3、商業を單なる自己營利の業務なりと見做す謬見を排して共存共榮の實を擧げしむべく商業

道德の涵養に意を用ふる事

一・工業科

工業科は大正十五年四月、小學校令を改正して實業科目として新に加へられた教科であるが、本科の新設によつて普通教育上に齎すべき使命は、詮ずるところ前記の手工教育に一步を進めて特に將來概ね工業的職業に従事せんとする者の爲に、直接的に一般工業に關する理解と堪能とを深めしめ、以て兒童の教養をして努めてその實生活に適應せしめんとするものであると解せられる。

今や我が産業界の進運に對して工業の任務の重大さは愈々加はつて來て居る。農業の作業上に電氣の應用、機械の利用を盛ならしむるを要し、且つその生産品の大部分は之に加へらるゝ工業的技術の巧拙によつて市場に於ける死活問題を招來する状態となつて居る。又商業の眞の繁榮を求めんが爲には國內に於ける製造工業の進歩を促して優良品の産出、生産費の低廉を圖らねばならぬ事はいふまでもないことである。随つて國民の工業常識を高め、之が生産能率の向上を圖るは實に我が國家の喫緊事であつて本科の使命は正しく之が要求に應せんとするものであると考へるのである。然れば之が教授上特に左の諸項に注意を要する。

1. 理論・製圖・工作法、材料經濟等共につとめて現今工業界の實際に即して之が研究連絡を圖る事

2. 實習を重んじ兒童をして勉めて創作工夫の立場にあらしむる事
3. 材料購入上、成品消化上等に於て實社會の状態を知らしむるやうに努むる事
4. 現今の工業界の職業種別の大要を知らしめ、既往と比較し將來を考察するの素地を養ふ事
5. 職工として將又工場經營者としての現在を知らしめ、將來改善上の念慮を養ふ事
6. 職工・工人・經營者としての人格陶冶を旨として訓練の徹底に意を用ふる事

○ 難波高等小學校に於ける兒童の履修せる實業科目と就職關係
高等小學校の工業科加設についての教則が改正實施せられてから滿三年を経過したが、本校では兒童の入學當初本人の申出によつて工業科と商業科とに分ち學級を編成して各別に教授することにしてゐるが、逐年左の如く工業科を志望するものが増加してゐる。

○ 昭和二年度
この年度から工業科を
加設することになり、
私は本校に就任した
第一學年 〓 六〇名
第二學年 〓 三九名
計 九九名

○昭和三年度	第一學年 〓 六六名	第二學年 〓 四四名	計 一二〇名
○昭和四年度	第一學年 〓 八五名	第二學年 〓 四八名	計 一三三名
○昭和五年度	第一學年 〓 一〇四名	第二學年 〓 六四名	計 一六八名

かやうに次第に工業科を希望する者が殖えてゐるが、尙實際に商業科を希望して學べる者のうちに卒業後工業及び職商方面に従事するものが可成りに多いのである。即ち昨年三月卒業の商業科を學べる者で就職決定者一一八名中に三八名(三三パーセントに當る)。本年三月卒業の商業科を學べる者で就職決定者一一九名中に五一名(四三パーセントに當る)を出してゐる。

世人は果してこの事實を如何に見る？
 以て大衆の子弟の教育に對する覺醒の一端をも窺知することが出来るではないか、手工教育の振興と共に高等小學校に於ける工業科の加設普及、設備改善、職員優遇、内容充實の切要なる所

以下である。

國産愛用の唱道も、産業合理化の企圖も乃至は失業對策の考究も共にかゝる基調問題の解決に基礎づけられなければ眞にその徹底を期することは出来ないと思する。

第二節 職業指導讀本の編著

私は昭和三年五月に職業指導に資すべく「職業指導
讀本職業」と題する小著を公にした。その内容目次は次の通りである。

第一課 職業精神

- 一、人は孤立して生活することは出来ぬ
- 二、人は必ず職業に従事しなければならぬ
- 三、職業とは何ぞや

第二課 職業の發達

- 一、人生
- 二、職業の分化
- 三、産業の發達
- 四、職業分類項目

第三課 少年の職業

- 一、給 仕
- 二、書 生
- 三、銀行事務見習
- 四、貯金事務見習
- 五、電車々掌助手
- 六、自働車少年案内係
- 七、百貨店の小売員
- 八、問屋の小店員
- 九、機械工見習
- 一〇、洋服裁縫見習
- 一一、印刷工見習
- 一二、電話交換手
- 一三、看護婦助産婦見習
- 一四、少年求人狀況

第四課 職業選擇

- 一、適材適所
- 二、先づ職業の研究が必要である
- 三、次に自己を研究せねばならぬ
- 四、障害と免除職業

第五課 求 職

- 一、一生の三大事
- 二、父母教師の心勞
- 三、職業紹介所

第六課 就職後の心得

- 一、立身の二途
- 二、眞の成功とは何ぞや
- 三、工員訓
- 四、商員訓

五、日々實踐十訓

(以上)

更に本年三月「職業指導本職業研究の栞」を編著した。左にその全文を掲ぐ。

○ 職業指導本 職業研究の栞

職業研究の必要

人生行路の第一岐路に立つ小學校の上級生!! 諸子の右手に見ゆるは、これからなほ何れかの學校を経て實社會に進む出世の本道であり、その左手に見ゆるは、これから直ちに實社會に通ずる出世の近道である。

本道は小學校を卒へて更に幾年間か教師に導かれて相當の修養を積んで世の中へ出る順路であるから樂に出世が出来る譯であるが、然し實際にはこの本道を進みかけて、邪しまな道に迷ひこんだり、病氣にかゝるか成績が悪いが學資がつつかぬかしてつまづいたり、道草をとつたりして却て出世が遅れる者が少くない。又近頃は大勢がむやみにこの本道の方へ押しかけるものだから、いざ世の中へ出ようといふときに、所謂就職難になやまされる者が殖えて來てゐる。それでこれからは本道を進まうとする者もよく、思案をめぐらしてからでなければ取りかへしのか

ぬ不幸を招くことになる。折角多額の學資をかけてそんな憂目をみる虞があるものはむしろ左手の近道を進むがよい。

年齒のゆかぬ少年達がこの近道をとつて業界に進出する。直ぐに職業戦線につく。それは勇ましい健げな姿ではないか。しかもそれは實社會で生きた學問をする爲の門出である。されどそれは出世の近道であるだけに道が険しい。一步步踏みしめて行かねばならぬ苦勞の多い道である。然し熱心(克己・精進)に努力し、公正(破邪・顯正)に事を處し、親切(互切、相愛)以て奉仕の誠を盡して行けばきつと眞の幸福をかち得ることが出来る。

エヂソンも、リンカーンも、秀吉も、金次郎も……皆この道を歩んだ人である。

あゝ、人生行路の第一岐路に立てる少年達よ。諸子は果してその何れの道を選ばれるか。親達は何といはれるか。先生はどうおつしやるか。君自身はどう考へてゐるか。結局その決断は専ら君の境遇と性能とによつて下されなければならない。迂濶によい加減な人のすゝめや世間體などに動かされてはいけない。而してその決断が正當でありさへすれば右するも可、左するも可、各々その道によつて夫々最善を盡すべきである。彼の右行するものが心驕り、左行するものが自ら輕んずるが如きは共にいはれなき僻事である。

唯こゝに深く注意せねばならないのは、その正當な決断を得るといふことがなかなか容易でないといふ事である。從來はそれを一般に手軽く簡単に片着け過ぎてゐた。それが爲に後悔する者が夥しいのである。諸子はその前車の覆轍をふまぬやうに慎重に考慮せねばならぬ。それについて諸子が今から用意せねばならぬ必要なことは先づ出世の目的をつけるといふことである。出世の目的とは何ぞ。曰く、それは「われは如何なる職業に従事すべきか」といふことに外ならぬのである。

凡そ職業を離れて生活はない。生活を離れて職業はない。吾人は職業に就いて働くことによつてのみ眞に我れを生かすことが出来るのである。而してその職業の適否が我等の生涯の幸不幸を分つ最大原因をなすのである。そこで出世の目的をつけるには、自己に對する正しき自覺その身體・性質・能力・境遇等についての〓を求めると共に、職業についての研究を必要とする。かくて自分に最も適當せる職業を見出すことが出来て、出世の目的が立ち、右すべきか左すべきかの思案も定まる譯である。

然るにこの大切な各自の反省自覺と職業の研究とを疎かにし、はつきりと出世の目的を立てずに、むやみに唯學問を目當に進んで行つて却つて肝腎な業務を通して、我れを眞に生かす働の道